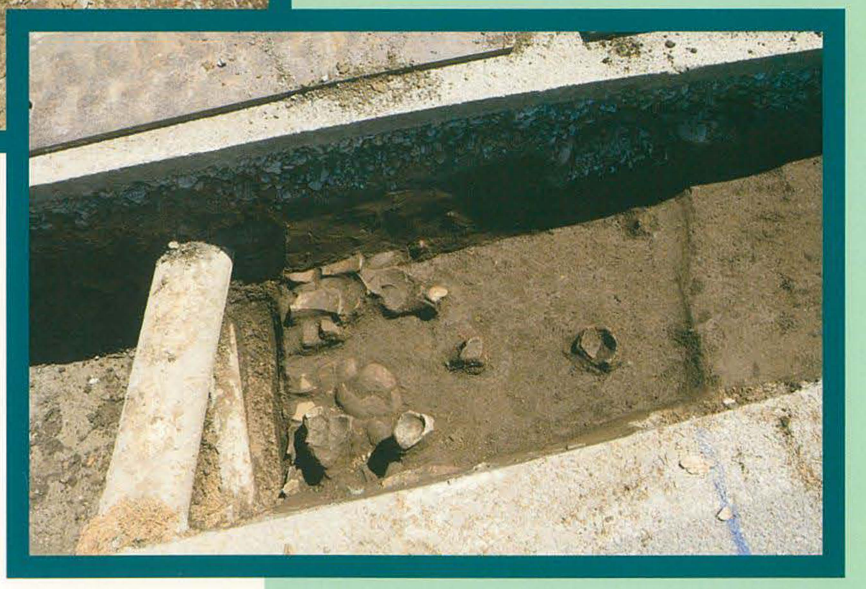
THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES
KUMAMOTO UNIVERSITY/2018

25

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2018年度



2020　熊本大学埋蔵文化財調査センター

THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES

KUMAMOTO UNIVERSITY/2018

25

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2018年度

2020　熊本大学埋蔵文化財調査センター

序　文

本年報は，2018年度に実施した調査に関するものである。

2018年度に実施した調査は，黒髪南地区，京町地区，本荘北地区，新南部地区，大江北地区にわたる37件（発掘調査３件，立合34件）であった。その結果，およそ弥生時代から古代・近世・近代にわたる遺構・遺物を確認しており，熊本地域の歴史復元の貴重な資料となることが予想されるものも含まれている。

「熊本地震」で大きな被害があった建物の再建工事にかかわる調査は，2018年度で概ね終えたことになる。今後は発掘調査の最終作業「調査報告書」の作成に努めていきたい。今後とも埋蔵文化財調査センターの業務への御理解と御協力をお願いする次第である。

2019年３月

国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査センター

センター長　伊藤正彦

例　言

1．本書は熊本大学構内において，2018年４月１日から2019年３月末日まで行われた埋蔵文化財の調査および熊本大学埋蔵文化財調査センターの活動内容に関する年次報告書である．

2．構内遺跡の調査は，昨年度に引き続き，年次と調査順を表す調査番号で表すこととし，出土遺物や記録類もこの番号で整理・管理している．

3．遺跡略号は，地区ごとにローマ字３文字で以下のように表記した．黒髪町遺跡群黒髪南地区（KKS），同北地区（KKN），本庄遺跡本荘北地区（（医学部附属病院構内）（HJH），同中地区（旧医学部構内）（HJM），同南地区（医学部保健学科構内）（KHJ），大江遺跡群薬学部構内（HJP），京町台遺跡教育学部附属小中学校構内（KMS），新南部遺跡群新南部地区（SNB），宇留毛神社周辺遺跡群宇留毛地区（URG），大江遺跡群渡鹿地区（OED）．

4．遺物への注記は，遺跡略号＋調査番号＋出土遺構（位置）の順で行った．

5．本書に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査センターにて保管している．

6．本書の執筆は，Ⅱ章を大坪志子・山野ケン陽次郎・土野雄貴・吉留広，図の作成は大坪・土野・吉留，表1の作成は大坪・土野，他を大坪が行った．

7．本書の編集は大坪が行った．

目　次

<本文目次>

第Ⅰ章　本年度の調査概要――――1
第Ⅱ章　調査の記録――――5
Ⅱ－1　黒髪北地区――――5
1．（黒髪北他）五高記念館他災害復旧工事樹木移植に伴う立会調査（1804）――――5
2．（黒髪北）武夫原グラウンド復旧工事に伴う立会調査（1827）――――8
3．（黒髪北）五高記念館周辺樹木除根業務に伴う立会調査（1829）――――9
4．（黒髪北）環境安全センター屋外排水管補修に伴う立会調査（1831）――――10
Ⅱ－2　黒髪南地区――――11
1．（黒髪南）黒髪南 C2新営機械設備工事に伴う立会・発掘調査（1805）――――11
2．（黒髪南）黒髪南 C2樹木移植に伴う立会調査（1814）――――13
3．（黒髪南）黒髪南 C2新営その他工事に伴う発掘調査（1815）――――15
4．（黒髪南）黒髪南 C2新営電気設備工事に伴う立会調査（1818）――――17
5．（黒髪南）研究実験棟接地工事に伴う立会調査（1819）――――20
6．熊本大学（黒髪北他）五高記念館他災害復旧工事に伴う立会調査（1823）――――20
7．（黒髪南）黒髪南 C3屋外排水設備改修工事に伴う立会調査（1830）――――21
8．（黒髪南）黒髪南 C3等屋外排水設備改修電気設備工事に伴う立会調査（1832）――――22
9．（黒髪南）本部南側排水桝等撤去工事に伴う立会調査（1834）――――22
Ⅱ－3　本荘北地区――――23
1．（医病）基幹・環境整備（旧管理棟等取り壊し）工事に伴う立会・発掘調査（1708）（継続）――――23
2．（医病）管理棟前ガス管復旧工事に伴う立会調査（1812）――――27
3．66kV 銀座橋熊大医学部線増架工事に伴う立会調査（1816）――――28
4．（医病）倉庫設置工事に伴う立会調査（1820）――――28
5．（医病）管理棟南側屋外ガス管改修工事に伴う立会調査（1821）――――29
6．（本荘北）旧臨床研究棟取り壊しに伴う支障配管撤去工事１に伴う立会調査（1833）―30
Ⅱ－4　大江地区（薬学部）――――31
1．（大江北・大江南）樹木移植に伴う立会調査（1803）――――31
2．（大江北）自然共生型産業イノベーションセンター新営その他工事に伴う立会調査(1806)――――33
3．（大江北）イノベーションセンター新営機械設備工事に伴う立会調査（1813）――――35
4．（大江南）工作物災害復旧工事に伴う立会調査（1825）――――37
5．（大江北）自然共生型産業イノベーションセンター新営電気設備工事に伴う立会調査（1826）――――38
Ⅱ－5　京町地区――――39
1．（京町）教育学部附属小学校管理棟新営機械設備工事に伴う立会調査（1802）――――39
2．（京町）教育学部附属小学校プール災害復旧工事に伴う立会調査（1807）――――40
3．（京町）教育学部附属小学校仮設校舎取設工事（取り壊し）に伴う立会調査（1808）―43
4．（京町）ライフライン災害復旧（給水設備等取替）工事に伴う立会調査（1809）――――46
5．（京町）ライフライン災害復旧（給水設備等敷設）Ⅰ期工事に伴う立会調査（1810）―47
6．（京町）ライフライン災害復旧（給水設備等敷設）Ⅱ期工事に伴う立会調査（1811）―48
Ⅱ－6　新南部地区――――49
1．（新南部）薬学部管理棟新営その他工事に伴う立会調査（1822）――――49
2．（新南部）薬学部管理棟新営電気設備工事に伴う立会調査（1824）――――52
3．（新南部）薬学部管理棟新営機械設備工事に伴う立会調査（1828）――――52
Ⅱ－7　渡鹿地区――――54
1．（渡鹿）北側道路後退に伴う擁壁改修工事に伴う立会調査（1801）――――54
Ⅱ－8　渡鹿地区（宿舎）――――55
1．（渡鹿２）屋外ガス管更新工事に伴う立会調査（1817）――――55

第Ⅲ章　文化財活用活動の記録――59
1．速報展示『発掘されたメインストリート！』――59
2．広島大学総合博物館企画展への協力――59
3．オープンキャンパス2018――59
4．ホームカミングデー――60
5．RKK 取材対応「電停名を掘る！」――60
6．授業協力――61

Summary ――62
付篇1 ――63
付篇2 ――66
付篇3 ――67
報告書抄録――68

＜図版目次＞

図１　黒髪町遺跡・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）――2
図２　黒髪北地区西半における調査地点配置図(1/2000)――6
図３　黒髪北地区東半における調査地点配置図(1/2000)――7
図４　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）――12
図５　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）――24
図６　大江地区（薬学部）における調査地点配置図（1/2000）――32
図７　京町地区における調査地点配置図（1/2000）――40
図８　新南部地区における調査地点配置図（1/1000）――50
図９　渡鹿地区における調査地点配置図（1/2000）――55
図10　渡鹿地区（宿舎）における調査地点配置図（1/1000）――56
図11　「往時の日向往還くっきり」新聞記事――67
図12　「道路遺構は「日向往還」」　新聞記事――67

＜写真目次＞

写真１　移植先調査区近景（南より）――5
写真２　②掘削完了状況（東より）――5
写真３　④調査区近景（南西より）――5
写真４　④遺物包含層確認状況（南より）――8
写真５　①②調査区近景（南より）――8
写真６　②掘削完了状況（南より）――8
写真７　④作業風景（南より）――8
写真８　④撤去完了状況（北より）――8
写真９　①地点掘削前状況（北より）――9
写真10　①地点抜根作業状況（南東より）――9
写真11　①地点抜根完了状況（東より）――9
写真12　②地点作業風景（西南西より）――9
写真13　②地点抜根作業状況（南より）――9
写真14　②地点抜根完了状況（南より）――10
写真15　③地点作業風景（南より）――10
写真16　③地点抜根作業状況（南より）――10
写真17　③地点抜根完了状況（南より）――10
写真18　掘削完了状況（東より）――10
写真19　Ⅰ区調査区北半全景（南より）――11
写真20　Ⅰ区調査区南部全景（西より）――11
写真21　Ⅱ区掘削状況（西より）――11
写真22　Ⅲ区配管検出状況（南より）――11
写真23　Ⅲ区完掘状況（南より）――11
写真24　Ⅳ区作業風景（南より）――13
写真25　Ⅳ区東西管路西端部掘削状況（西より）――13
写真26　Ⅳ区南北管路掘削状況（北より）――13
写真27　Ⅳ区東西管路掘削状況（東より）――13
写真28　調査地遠景（南東より）――14
写真29　⑬ツツジ重機掘削作業風景（南より）――14
写真30　⑬ツツジ掘削状況（南西より）――14
写真31　⑧マキ遺物包含層検出状況（北より）――14
写真32　⑫マキ重機掘削作業風景（東より）――14
写真33　⑫マキ掘削状況（北より）――14
写真34　⑮マキ南側一部遺物包含層検出（北より）――15
写真35　⑯マキ掘削状況（東より）――15
写真36　Ⅰ区完掘状況（南より）――15
写真37　Ⅱ区完掘状況（南より）――15
写真38　Ⅲ区完掘状況（東より）――15
写真39　Ⅲ区 M50大溝完掘状況（北より）――16
写真40　Ⅳ区掘削状況（東より）――16
写真41　Ⅳ区 M62竪穴建物遺物出土状況（東より）――16
写真42　Ⅴ区掘削状況（南より）――16
写真43　Ⅴ区赤煉瓦建物基礎検出状況（南西より）――16
写真44　Ⅵ区完掘状況（東より）――16
写真45　掲示板部近景（東より）――17
写真46　掲示板部全体掘削状況（北西より）――17
写真47　掲示板部東側掘削状況（東より）――17
写真48　掲示板部西側掘削状況（北より）――17
写真49　①地点作業風景（北西より）――17
写真50　①地点外灯基礎部掘削状況（西より）――17
写真51　①地点配線部掘削状況（東より）――18

写真52　②地点全景（西より）――18
写真53　②地点東西部古代遺物包含層検出状況（北より）――18
写真54　③地点作業風景（南西より）――18
写真55　③地点掘削状況（南より）――18
写真56　④地点作業風景（北より）――18
写真57　④地点掘削状況（南より）――19
写真58　⑤地点東西東半部東半作業風景（東より）――19
写真59　⑤地点東西東半部東半掘削状況（東より）――19
写真60　⑤地点東西東半部西半掘削状況（東より）――19
写真61　⑤地点東西中央部掘削状況（東より）――19
写真62　⑤地点東西西半部掘削状況（西より）――19
写真63　⑤地点外灯基礎部掘削状況（北より）――19
写真64　調査区近景（南より）――20
写真65　③掘削完了状況（南より）――20
写真66　①ｂ作業風景（西より）――21
写真67　①ｂ基礎天場・型枠赤煉瓦検出状況（西より）――21
写真68　②作業風景（北東より）――21
写真69　②土層断面（北より）――21
写真70　掘削完了状況（東より）――21
写真71　遺物包含層確認状況（南西より）――22
写真72　遺物包含層付近土層断面（北より）――22
写真73　調査区近景（南より）――23
写真74　掘削完了状況（南より）――23
写真75　臨床研究棟西側基礎・フーチング撤去状況（北より）――26
写真76　旧管理棟・外来臨床研究棟接続部分掘削状況（南東より）――26
写真77　旧管理棟北側雨水管・雨水桝新設箇所掘削状況（西より）――26
写真78　旧管理棟中央北側雨水桝新設箇所土層断面（北西より）――26
写真79　旧管理棟北西端側側溝新設箇所仮囲い内側掘削状況（南より）――26
写真80　旧管理棟北西端側申請変更箇所仮囲い内側掘削状況（南より）――27
写真81　旧花壇捨てコン検出状況（西より）――27
写真82　車寄せ北基礎（東）捨てコン検出状況（西より）――27
写真83　作業風景（北東より）――27
写真84　掘削状況（北より）――27
写真85　土層断面（北より）――27
写真86　重機掘削風景（北より）――28
写真87　調査区掘削状況（北より）――28
写真88　調査区近景（北より）――28
写真89　①掘削完了状況（南より）――28
写真90　②掘削完了状況（西より）――29
写真91　調査区近景（東より）――29
写真92　③西側掘削完了状況（東より）――29
写真93　③西側土層断面（北より）――30
写真94　③西側土層断面（北より）――30
写真95　③掘削完了状況（東より）――30
写真96　④配管検出状況（北より）――30
写真97　①地点作業風景（南より）――31
写真98　①地点掘削状況（南より）――31
写真99　②地点作業風景（南東より）――31
写真100　②地点掘削状況（南より）――31
写真101　③地点作業風景（東より）――33
写真102　③地点掘削状況（南東より）――33
写真103　⑤地点掘削状況（南東より）――33
写真104　⑤地点掘削状況（東より）――33
写真105　調査地西側基礎検出状況（西より）――34
写真106　作業員清掃風景（東より）――34
写真107　赤煉瓦基礎全景（西より）――34
写真108　コンクリート基礎全景（西より）――34
写真109　赤煉瓦基礎南側検出状況（東より）――34
写真110　赤煉瓦基礎北側検出状況（東より）――35
写真111　赤煉瓦基礎東側検出状況（北より）――35
写真112　コンクリート基礎検出状況（東より）――35
写真113　赤煉瓦基礎立面（北より）――35
写真114　調査地点北西部北壁土層断面（南より）――35
写真115　トレンチ１調査区遠景（北より）――36
写真116　トレンチ１掘削状況（北より）――36
写真117　トレンチ１掘削レベル（東より）――36
写真118　トレンチ２重機掘削作業風景（西より）――36
写真119　トレンチ２赤煉瓦基礎検出状況（西より）――36
写真120　トレンチ２掘削状況（西より）――36
写真121　トレンチ２南壁土層断面（北より）――37
写真122　調査区近景（西より）――37
写真123　③根石検出状況（北より）――37
写真124　③根石撤去完了状況（北より）――37
写真125　③調査区近景（南西より）――38
写真126　②重機による掘削作業風景（北より）――38
写真127　②土層断面（南より）――38
写真128　作業風景（西より）――39
写真129　玄関前掘削状況（西より）――39
写真130　枡への管路掘削状況（南東より）――39

写真131　管理棟西側作業風景（西より）――39
写真132　管理棟西側掘削状況（西より）――39
写真133　管理棟北側掘削状況（北東より）――40
写真134　調査地点遠景（南より）――42
写真135　１トレンチの地山検出状況（西より）――42
写真136　２トレンチの地山検出状況（南西より）――42
写真137　赤煉瓦構造物の掘削作業風景（北東より）――42
写真138　赤煉瓦構造物の検出状況（北東より）――42
写真139　赤煉瓦構造物東側検出状況（北より）――42
写真140　赤煉瓦構造物西側検出状況（北より）――42
写真141　赤煉瓦構造物近景（東より）――42
写真142　①地点掘削状況（南より）――43
写真143　②地点作業風景（南より）――43
写真144　②地点掘削状況（西より）――43
写真145　③地点作業風景（北西より）――43
写真146　③地点掘削状況（北より）――43
写真147　④地点基礎撤去作業風景（西より）――44
写真148　⑤地点基礎撤去作業風景（東より）――44
写真149　⑥地点基礎撤去作業風景（北西より）――44
写真150　⑥地点北側基礎撤去作業風景（東より）――44
写真151　⑥地点中央基礎撤去後状況（北より）――44
写真152　⑥地点西側基礎撤去後状況（北より）――44
写真153　⑦地点仮設沈殿槽撤去作業（北より）――45
写真154　⑧地点撤去排水管掘削作業風景（北より）――45
写真155　⑧地点撤去排水管検出状況（北より）――45
写真156　⑨地点撤去排水管検出作業風景（北より）――45
写真157　⑨地点排水管撤去作業風景（東より）――45
写真158　⑨地点排水管撤去作業風景（西より）――45
写真159　Ｅ５工区①調査区近景（南西より）――46
写真160　Ｅ５工区①遺物出土状況（南より）――46
写真161　Ｅ５工区①枠状石造物検出状況（南より）――47
写真162　Ｃ２工区②重機による掘削作業風景（西より）――47
写真163　Ｃ２工区②竪穴建物内遺物出土状況（東より）――47
写真164　Ｃ１工区調査区近景（南より）――48
写真165　Ｃ１工区②桝状石積検出状況（南より）――48
写真166　Ｃ２工区①竪穴建物内遺物出土状況（北西より）――48
写真167　Ｃ２工区②遺物出土状況（西より）――48
写真168　Ｗ３工区①焼土検出状況（北より）――48
写真169　Ｅ３工区調査区近景（東より）――49
写真170　Ｅ３工区溝完掘状況（北より）――49
写真171　調査区近景（西より）――51
写真172　収納舎東壁際掘削完了状況（北より）――51
写真173　温室壁際③遺物出土状況（西より）――51
写真174　新営管理棟設置箇所 M1～ M4検出状況（東より）――51
写真175　新営管理棟設置箇所 M1完掘・M2検出状況（北より）――52
写真176　②③調査区近景（南より）――52
写真177　②鉄管検出状況（西より）――52
写真178　調査区近景（東より）――53
写真179　①ａ起点付近土層断面（東より）――53
写真180　④ｂ土層断面接写（東より）――53
写真181　①近世硬化面検出状況（南より）――54
写真182　①抜取り痕内西壁土層断面（東より）――54
写真183　②南壁土層断面（北より）――54
写真184　②集石検出状況（南より）――54
写真185　トレンチ１重機掘削作業風景（南より）――56
写真186　トレンチ１掘削状況（南より）――56
写真187　トレンチ１黄褐色土層検出レベル（西より）――56
写真188　トレンチ2掘削レベル（南より）――56
写真189　トレンチ３遠景（北より）――57
写真190　トレンチ３掘削状況（南より）――57
写真191　速報展示　展示説明会実施状況――59
写真192　オープンキャンパス　展示説明の様子――60
写真193　遺跡巡りでの遺跡説明の様子――60
写真194　遺跡巡りでの遺跡説明の様子――60
写真195　ホームカミングデー　展示説明の様子――60
写真196　取材の様子――60
写真197　遺物整理作業の見学――61
写真198　構内遺跡と展示の説明――61

＜表目次＞

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧――1
表２　2018年度調査一覧――3

第Ⅰ章　本年度の調査概要

平成28年４月に発生した益城町を震源とする熊本地震では，熊本大学においても文化財や建物に甚大な被害を受けた．平成29年度から本格的な復興事業が開始され，それに伴う埋蔵文化財の調査も実施した．本年は，ひきつづき復興事業に伴う埋蔵文化財の調査を実施するとともに，本学の施設整備事業に伴う調査にも対応した．本年度に実施した事業は表１のとおりで，本年度に実施した調査は，発掘調査が３件，立会が34件である．

震災で被害が大きかった建物の一つは，黒髪南地区の旧工学部１号館（黒髪南 C2）で同じ場所で再建することとなった．新築にあたり埋蔵文化財の調査が必要な範囲は，昨年度に調査を終えたが（1716・1724調査地点），範囲に不足が生じ，本年度に追加調査を実施した（1815調地地点）．昨年度同様，古代の竪穴建物やピット，近代の溝，レンガ建物基礎などを検出した．

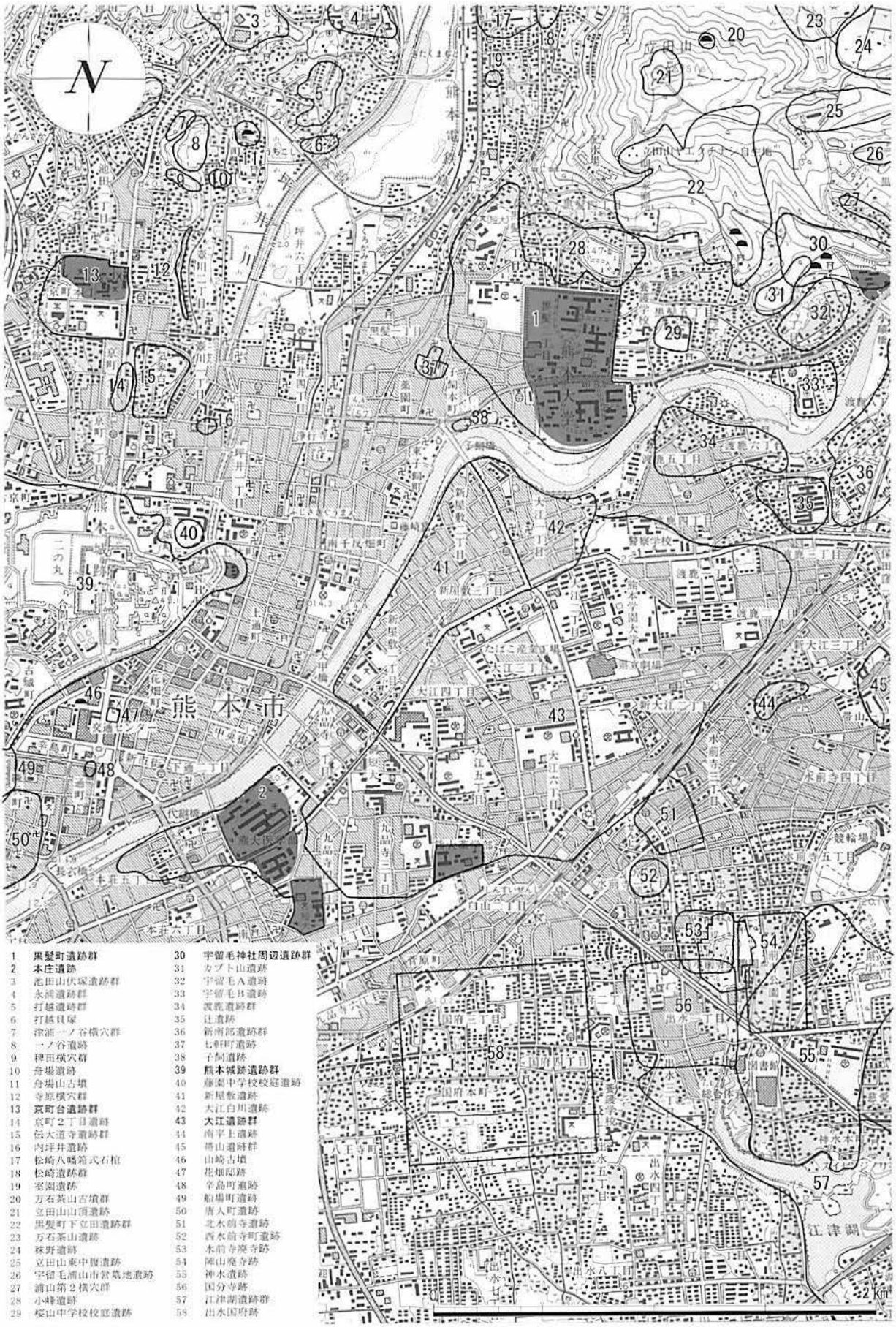
京町地区では，災害復旧事業としてライフライン再生工事（1809・1810・1811調査地点）と附属小学校のプール再建工事をおこなった（1807調査地点）．ライフライン再生工事に伴う立会調査では，弥生時代・古代・近世・近代の遺構や遺物を確認した．熊本藩家老澤村家の屋敷跡として知られる同敷地では，1994年に実施された発掘調査でその一端が知られているが，その後の調査では近世の遺構を捉えたことはほとんどない．熊本県立師範学校，熊本大学教育学部附属小学校として利用されてきた経緯にも因るであろう．今回，近世・近代の遺構は共伴遺物が乏しく，今後調査成果は十分に精査をしなくてはならないが，京町台の歴史復元の資料となるだろう．プールの再建工事では，古い時代の遺構・遺物を検出することはなかったが，範囲内で確認した地山の様相からは，京町地区が微高地の頂部に位置することを追認するとともに，遺跡の分布・展開を把握するうえで有用な情報を得ることができた．

本荘北地区では，大学病院の再開発事業として昨年度から実施している旧管理棟・旧外来臨床研究棟の取り壊し工事に伴う発掘調査をおこなった（1708調査地点）．旧外来臨床研究棟取り壊し工事では，昨年度に確認した旧日向往還と考えられる道路跡の続きを推定ルート上で検出できた．４枚の硬化面とともに，側溝や波板状痕跡も確認され，昨年の調査成果と合わせ，近世の熊本城下町の様相を復元する際に役立つであろうと期待される．

表1　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧（アミ部分は本年度調査した地区を示す）

	地区名（学部名）	所　在　地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備　　考
1	黒髪北地区(法･文･教･大教センター) 黒髪東地区(教育学部附属特別支援学校)	熊本市中央区黒髪２丁目40-1 熊本市中央区黒髪５丁目17-1	黒髪町遺跡群	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
2	黒髪南地区（工・理）	熊本市中央区黒髪２丁目39-1	黒髪町遺跡群	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
3	京町地区（教育学部附属小・中学校）	熊本市中央区京町本丁5-12	京町台遺跡	集落址	弥生・近世	
4	城東地区（教育学部附属幼稚園）	熊本市中央区城東町5-9	熊本城址	城館址・熊本城関連遺構	近世	
5	教育学部新南部農場	熊本市東区新南部６丁目5-8	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
6	沿岸域環境科学教育研究センター	上天草市松島町大字合津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査により貝塚でないことが判明
7	本荘中地区（発生医学研究所，エイズ学研究センター等）	熊本市中央区本荘２丁目2-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	
8	本荘北地区（医学部附属病院・医学部等）	熊本市中央区本荘１丁目1-1	本庄遺跡(熊大病院敷地遺跡)	散布地・集落址・墓地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近代	
9	本荘南地区（保健学科等）	熊本市中央区九品寺４丁目24-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	周辺遺跡
10	大江地区（薬学部等）	熊本市大江本町5-1	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺遺跡
11	渡鹿地区（課外活動施設）	熊本市渡鹿４丁目1-1	大江遺跡群	集落址	奈良・平安	
12	宇留毛地区(学生寄宿舎･職員宿舎等)	熊本市中央区黒髪7丁目	宇留毛神社周辺遺跡群	散布地	弥生・奈良・平安	
13	渡鹿地区（職員宿舎）	熊本市中央区盧徳1丁目16番	大江遺跡群	集落址	奈良・平安	
14	新屋敷（職員宿舎）	熊本市中央区新屋敷1丁目9番11号	新屋敷遺跡	集落址	奈良・平安	

図1　黒髪町遺跡・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）



1	**黒髪町遺跡群**	30	**宇留毛神社周辺遺跡群**
2	**本庄遺跡**	31	カブト山遺跡
3	池田山伏塚遺跡群	32	宇留毛A遺跡
4	永浦遺跡群	33	宇留毛B遺跡
5	打越遺跡群	34	護藤遺跡群
6	打越貝塚	35	辻遺跡
7	津浦一ノ谷横穴群	36	新南部遺跡群
8	一ノ谷遺跡	37	七軒町遺跡
9	稗田横穴群	38	子飼遺跡
10	舟場遺跡	39	**熊本城跡遺跡群**
11	舟場山古墳	40	藤園中学校校庭遺跡
12	寺原横穴群	41	新屋敷遺跡
13	**京町台遺跡群**	42	大江白川遺跡
14	京町２丁目遺跡	43	**大江遺跡群**
15	伝大道寺遺跡群	44	南平上遺跡
16	内坪井遺跡	45	搭山遺跡群
17	松崎八幡箱式石棺	46	山崎古墳
18	松崎遺跡群	47	花畑邸跡
19	室園遺跡	48	幸島町遺跡
20	万石茶山古墳群	49	船場町遺跡
21	立田山山頂遺跡	50	唐人町遺跡
22	黒髪町下立田遺跡群	51	北水前寺遺跡
23	万石茶山遺跡	52	西水前寺町遺跡
24	秣野遺跡	53	水前寺廃寺跡
25	立田山東中腹遺跡	54	陳山廃寺跡
26	宇留毛浦山市若塚遺跡	55	神水遺跡
27	浦山第２横穴群	56	国分寺跡
28	小峰遺跡	57	江津湖遺跡群
29	桜山中学校校庭遺跡	58	出水国府跡

表2　2018年度調査一覧

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
18.4.2・3・5・10・20・27、5.24、6.28・29・7.4・9・13	１７０８（継続）	（医病）基幹・環境整備（旧管理棟等取り壊し）工事	発掘調査／立会調査	7681.2㎡	古代・近世近代	道路・竪穴建物・溝・ピット・土師器・須恵器・陶磁器・火打石・古銭・鉄器
18.4.5、19.3.12～15	１８０１	（渡鹿）北側道路後退に伴う擁壁改修工事	立会調査	39.51㎡	縄文・近世近代	集石・道路・練兵場基礎・縄文土器・陶磁器・煉瓦
18.5.10・22	１８０２	（京町）教育学部附属小学校管理棟新営機械設備工事	立会調査	76.70㎡		
18. 5. 29	１８０３	（大江北・大江南）樹木移植	立会調査	3.3㎡	古代・近世近代	土師器
18.6.5・7・8・11～13	１８０４	（黒髪北他）五高記念館他災害復旧工事樹木移植	立会調査	34.96㎡	古代・近世近代	土師器・須恵器・陶磁器・瓦・煉瓦
18.6.7・8、6.25～7.2、19.1.10、2.26	１８０５	（黒髪南）黒髪南C2新営機械設備工事	立会調査／発掘調査	38.17㎡	古代・近世近代	竪穴建物・ピット・溝・土師器・須恵器
18.6.7・8・12	１８０６	（大江北）自然共生型産業イノベーションセンター新営その他工事	立会調査	1115.69㎡	近代	建物基礎・煉瓦
18.6.27	１８１２	（医病）管理棟前ガス管復旧工事	立会調査	2.20㎡		
18.7.9・10	１８０７	（京町）教育学部附属小学校プール災害復旧工事	立会調査	1360.00㎡	近代	煉瓦構造物・陶磁器・鉄製品・煉瓦
18.7.13・23・25・26	１８０８	（京町）教育学部附属小学校仮設校舎取設工事（取り壊し）	立会調査	469.00㎡		
18.7.23・25、8.1・6・7・22・24、9.18、10.17・19・22～26、11.1～20	１８０９	（京町）ライフライン災害復旧（給水設備等取替）工事	立会調査	187.33㎡	弥生・古代近世・近代	竪穴建物・土坑・石枠・ピット・不明遺構・弥生土器・土師器・陶磁器・煉瓦・ガラス製品・瓦
18.7.23、8.9・10・16・17・21～23・27～31、9.3・5～7・10～14・18・19・25～27、10.1～24、11.7・8・30	１８１０	（京町）ライフライン災害復旧（給水設備等敷設）Ｉ期工事	立会調査	150.99㎡	弥生・古代近世・近代	竪穴建物・土坑・埋設土器・栗石・石桝・溝・ピット・弥生土器・鉄器・土師器・須恵器・陶磁器・瓦・銅製品・ガラス製品
18.7.23、8.6～9、11.13	１８１１	（京町）ライフライン災害復旧（給水設備等敷設）ＩＩ期工事	立会調査	676.11㎡	弥生・古代近世・近代	竪穴建物・溝・ピット・弥生土器・土師器・陶磁器・ガラス製品・瓦
18.8.17、11.27	１８１３	（大江北）イノベーションセンター新営機械設備工事	立会調査	359.00㎡	近代	建物基礎
18.8.27～30	１８１４	（黒髪南）C2樹木移植	立会調査	124.10㎡	古代	土師器・須恵器
18.9.27～10.25、11.15～19.3.4	１８１５	（黒髪南）黒髪南C2新営その他工事	発掘調査	104.10㎡	古代・近代	土師器・須恵器・煉瓦
18.11.5	１８１６	66kV銀座橋熊大医学部線造架工事	立会調査	12.00㎡		
18.11.6、19.5.10・13・14・	１８１７	（渡鹿2）屋外ガス管更新工事	立会調査	177.55㎡		
18.11.12・13、19.1.29	１８１８	（黒髪南）黒髪南C2新営電気設備工事	立会調査	75.40㎡		
18.11.27	１８１９	（黒髪南）研究実験棟接地工事	立会調査	15.68㎡		
18.12.7	１８２０	（医病）倉庫設置工事	立会調査	36.51㎡		

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
18.12.10・11	１８２１	（医病）管理棟南側屋外ガス管改修工事	立会調査	20.15㎡		
18.12.12・14・19・25、19.1.16・23~25・28、2.4	１８２２	（新南部）薬学部管理棟新営その他工事	立会調査	82.97㎡	古代・近世	溝・ピット・土師器・陶磁器・近代煉瓦（持ち込み品）
19.1.15・2.18	１８２３	（黒髪北他）五高記念館他災害復旧工事	立会調査	62.26㎡		
19.1.28	１８２４	（新南部）薬学部管理棟新営電気設備工事	立会調査	2.93㎡	古代	土師器
19.2.1	１８２５	（大江南）工作物災害復旧工事	立会調査	10.02㎡		
19.2.6	１８２６	（大江北）自然共生型産業イノベーションセンター新営電気設備工事	立会調査	5.47㎡	近代	ガラス製品
19.2.8	１８２７	（黒髪北）武夫原グランド復旧工事	立会調査	2491.38㎡		
19.2.19	１８２９	（黒髪北）五高記念館周辺樹木除根業務	立会調査	58.50㎡	近代	煉瓦
19.2.20・21	１８２８	（新南部）薬学部管理棟新営機械設備工事	立会調査	31.99㎡	古代・近世	溝・土師器・陶磁器
19.2.27	１８３２	（黒髪南）黒髪南C3等屋外排水設備改修電気工事	立会調査	12.43㎡		
19.3.5	１８３３	（本荘北）旧臨床研究棟取り壊しに伴う支障配管撤去工事1	立会調査	4.85㎡		
19.3.14	１８３０	（黒髪南）黒髪南C3屋外排水設備改修工事	立会調査	0.74㎡		
19.3.14	１８３１	（黒髪北）環境安全センター屋外排水管補修工事	立会調査	0.09㎡		
19.3.20	１８３４	（黒髪南）本部南側排水桝等撤去工事	立会調査	4.60㎡		

新南部地区では，薬学部管理棟新営その他工事に伴い立会調査を実施した（1822調査地点）．本地区で本格的に調査を実施したのは，2017年度に実施した旧加工舎・農夫舎・畜舎等の解体撤去工事に伴う調査に次ぐものである．遺構・遺物の検出は多くないが，前回の調査成果と併せて，本地区の地下の様相を把握する良い機会となった．

このほか，近年，埋蔵文化財調査センターが記録に努めている近代の遺構も，各調査地点で確認された．

大江北地区における自然共生型産業イノベーションセンター新営その他工事地点（1806・1813調査地点）では，33×32mの工事範囲内で，南北9.3m以上，東西16m以上に及ぶ赤煉瓦建物の基礎や，コンクリート基礎を確認した．

京町地区のプール再建工事地点や黒髪南地区旧工学部1号館再建地点，黒髪北地区の樹木除根作業地点（1829調査地点）等においても，赤煉瓦構造物や建物基礎を検出した．これらも，熊本大学および熊本市，熊本県の歴史の一部である．来歴等はある程度文献等で把握できるが，掘り起こして初めて知ることもある．今後とも，少しずつ近代の遺構・遺物の評価にも取り組みたい．

今年度で，大きな被害があった建物の再建に係る工事がほぼ終了した．京町地区では，仮設校舎の解体・撤去も進んだ．しかし，災害復旧に係る工事は，いま少し残されており，本荘地区では通常業務としての整備事業はまだまだ継続される．また，発掘調査の最終作業「発掘調査報告書」作成・刊行作業がある．

今後とも，関係各所の理解・協力のもと，本学の再開発事業の円滑な推進と埋蔵文化財の保護活動に努めたい．

第Ⅱ章　調査の記録

Ⅱ－1　黒髪北地区　（図２・３参照）

1．（黒髪北他）五高記念館他災害復旧工事樹木移植に伴う立会調査（1804）

＜調査期間＞

2018年６月５・７・８・11～13日

＜調査面積＞

34.96㎡

＜調査員＞

士野雄貴．

＜調査概要・結果＞

熊本地震により被害を受けた五高記念館の災害復旧工事に際し，工事足場等の設置に支障となる樹木を仮移植するための工事立会である．五高記念館南側にある樹木３本（イチョウ２・モミジ１）が対象である．移植先は黒髪南地区南西，中央工場Ａ西側の構内道路が直角に曲がる辺りである．開始順に移植先を①～③，移植元を④～⑥とした．①～③は，他の樹木や地中構造物を考慮して7.5m間隔で地表下0.8mまでを掘削し，地上にはみ出る分は覆土保護することとなった．

①は2.1×2.0m・地表下0.8m，②は1.9×1.5m・地表下0.8m，③は1.7×1.4m・地表下0.7mをそれぞれ掘削した．いずれも現代整地層にとどまり遺跡への影響はなかった．

④（イチョウ）は①の移植元である．幹を中心に対角線５mの正方形を設定し，各辺に沿うよう約0.7m幅を掘削した．調査区東側に地表下1.5mでヒューム管を確認したため，地表下1.4mで根鉢を作ることにした．ヒューム管掘方の外側では地表下0.7～0.9mで近世包含層，地表下0.9～1.2mで古代包含層を確認した．少量の土師器・須恵器片が出土している．遺構は確認されなかったため，根鉢を切り出し抜根した．

⑤（イチョウ）は②の移植元である．幹を中心に対角線４mの正方形を設定し，各辺に沿うよう約0.7m幅を掘削した．地表下0.2mで五高時代の舗装面とみられる玉砂利層，地表下0.7mまで近代整地層を確認した．下位は近世包含層である．地表下0.83mで根鉢を切り出し，抜根した．陶磁器などが少量出土したが遺構は確認されなかった．

⑥（モミジ）は③の移植元である．幹を中心に対角線４mの正方形を設定し，各辺に沿うよう約0.7m幅を掘削した．地表下0.15mで玉砂利層，地表下0.7mまで近代整地層を確認した．下位は近世包含層である．地表下0.81mで根鉢を切り出し，抜根した．陶磁器などが少量出土したが遺構は確認されなかった．

写真１　移植先調査区近景（南より）

写真２　②掘削完了状況（東より）

写真３　④調査区近景（南西より）

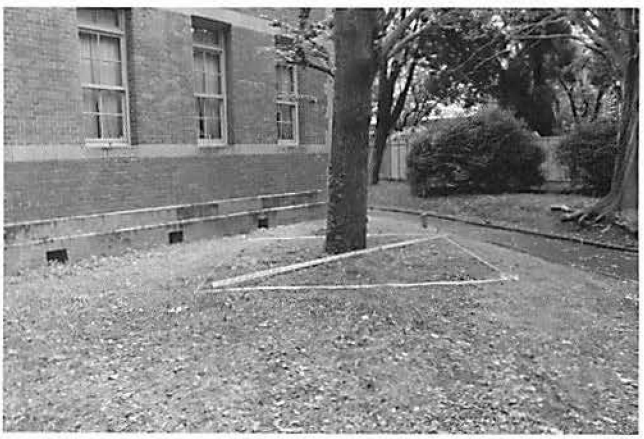


図２　黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000）

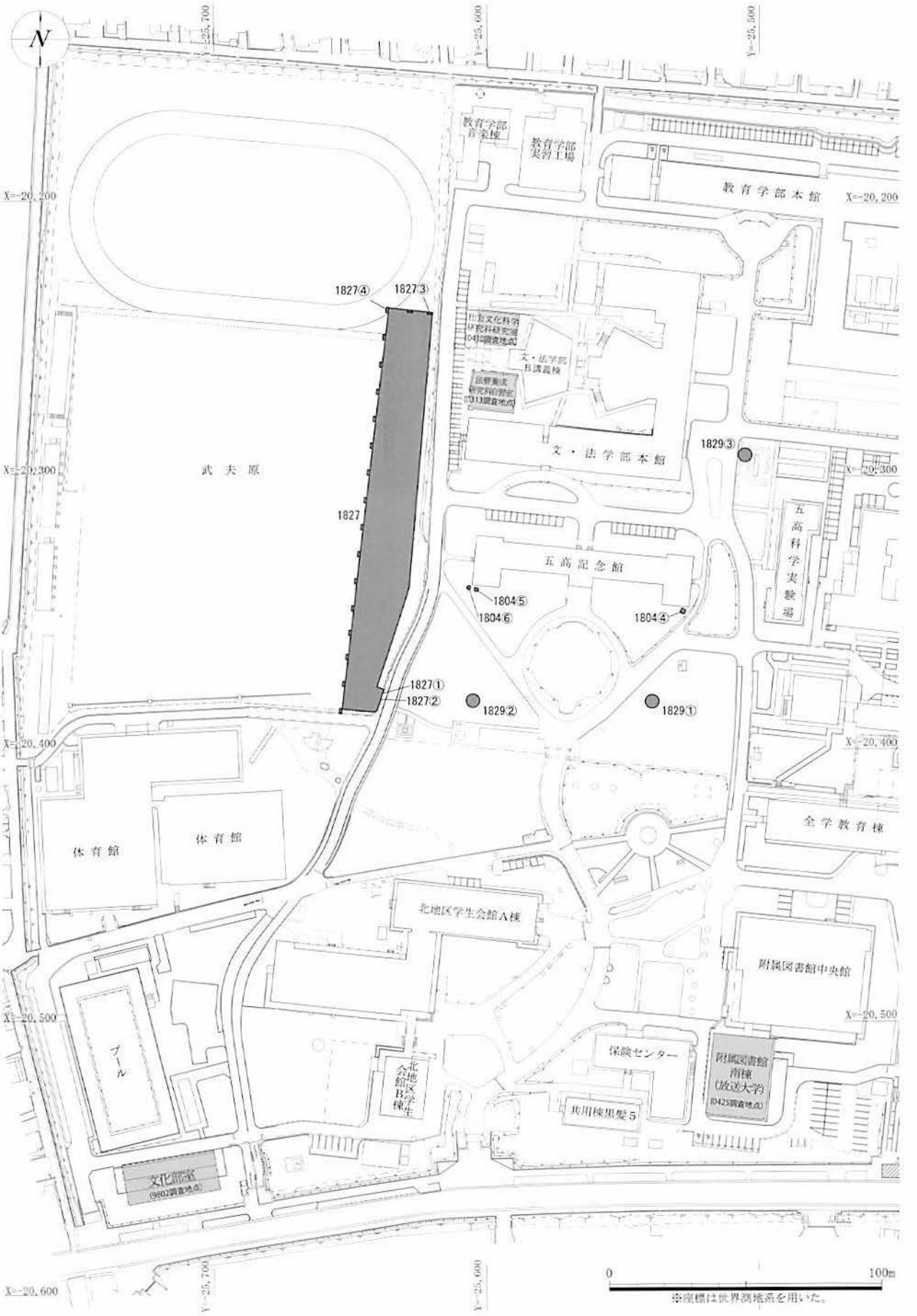


図３　黒髪北地区東半における調査地点配置図 (1/2000)

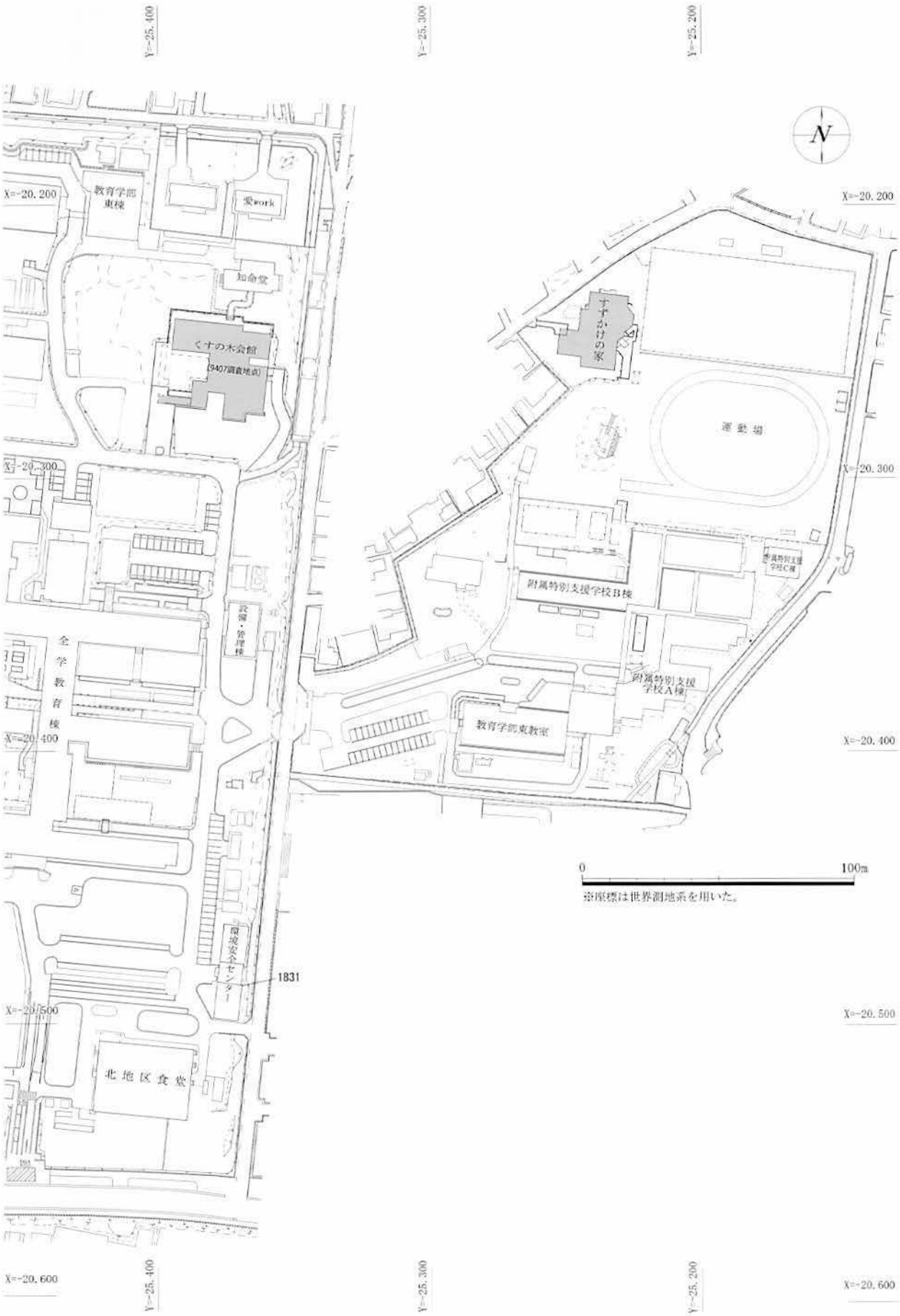


写真４　④遺物包含層確認状況（南より）

２．（黒髪北）武夫原グラウンド復旧工事に伴う立会調査（1827）

＜調査期間＞

2018年２月８日

＜調査面積＞

0.16㎡

＜調査員＞

土野雄貴.

＜調査概要・結果＞

黒髪北地区の運動場である武夫原の東側に，整備されていた仮設駐車場の復旧に伴う工事立会である．駐車場入口部分のネットフェンス支柱復旧・駐車場周囲の防球フェンス支柱撤去・駐車場の砕石舗装撤去からなるが，このうちネットフェンス支柱復旧および防球フェンス支柱撤去に伴う工事について，埋蔵文化財へ影響を与える可能性があることから立会を実施した．工事の順序に従いネットフェンス支柱復旧部分を①・②，防球フェンス撤去部分については，根枷の形状が２種類あることから各群１本ずつ確認することとし，③・④とした．

①は，以前のコンクリート基礎が残置してあり，コア抜きして再利用するため舗装を0.4×0.4m撤去しただけで掘削を伴わなかった．

②は0.4×0.4mを地表下0.46m掘削したが，現代埋土にとどまり遺跡への影響はなかった．

③④はいずれも重機によって引き抜いて撤去でき，掘削を伴わないことを確認したため，残りの作業については慎重な工事を指示して立会を終了した．

写真５　①②調査区近景（南より）

写真６　②掘削完了状況（南より）

写真７　④作業風景（南より）

写真８　④撤去完了状況（北より）

3．（黒髪北）五高記念館周辺樹木除根業務に伴う立会調査（1829）

＜調査期間＞

2019年２月19日

＜調査面積＞

24.23㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

撤去となった樹木の，除根作業である．切り株の状態から掘削した．4本分を申請していたが，旧化学実験場南西隅の地点（申請図番号③）については取りやめとなり，３箇所について立会を実施した．

①地点（申請番図号②）は，五高記念館の南東部の緑地内である．2.6×2.4mの範囲を地表下0.6mまで掘削した．地表下0.4mで遺構面と同様の土が検出されたが，既往の調査結果と照らすとかなり浅く，その下位から黒色土が検出された．赤煉瓦片も含まれており，近・現代において遺構面まで一度削平されたものと考えられる．樹根はこの深さで撤去できた．遺構・遺物の検出はない．

写真９　①地点掘削前状況（北より）

写真10　①地点抜根作業状況（南東より）

写真11　①地点抜根完了状況（東より）

②地点（申請図番号①）は，五高記念館の南西部の緑地内である．3.3×3.0mの範囲を，地表下0.6～1.0mまで掘削し，南側1/3弱程度の範囲を1.3mまで掘削して，樹根を動かし撤去した．この深さまでは，ガラス瓶やテグスなどが混入しており，近・現代の土層である．底部10cmほどは遺構面の土であるが，締まりがなく，異なる土が混入しており，一度掘削したものと判断した．遺構・遺物の検出はない．

写真12　②地点作業風景（西南西より）

写真13　②地点抜根作業状況（南より）

写真14　②地点抜根完了状況（南より）

写真17　③地点抜根完了状況（南より）

③地点（申請図番号④）は，文学部・法学部棟の東側，旧化学実験場の西側の緑地帯に位置する．2.5×2.4mの範囲を地表下0.85mまで掘削した．ガラス瓶や銅線等が混入しており，近・現代の埋土である．遺構面と同様の土壌を一部北側で確認したが，赤煉瓦が押し込まれてる以外は，遺構は検出されなかった．樹根の撤去は，これ以上の掘削をおこなわずに完了できた．遺構・遺物の検出はない．

写真15　③地点作業風景（南より）

写真16　③地点抜根作業状況（南より）

4．（黒髪北）環境安全センター屋外排水管補修に伴う立会調査（1831）

＜調査期間＞

2019年３月14日

＜調査面積＞

0.09㎡

＜調査員＞

土野雄貴．

＜調査概要・結果＞

環境安全センター東側の屋外排水管補修工事に伴う工事立会である．

破損自体は地上部分であるが，作業空間を確保するため，排水管下を0.3×0.3m，地表下0.2m掘削したが，現代埋土にとどまり埋蔵文化財への影響はなかった．

写真18　掘削完了状況（東より）

Ⅱ－２　黒髪南地区　（図４参照）

１．（黒髪南）黒髪南Ｃ２新営機械設備工事に伴う立会・発掘調査（1805）

＜調査期間＞

2018年６月７～８，25～７月２日，11月29日，2019年２月26日

＜調査面積＞

38.17㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

熊本地震で被災し，再建予定の工学部１号館の機械設備工事である．

Ⅰ区とした工学部１号館東側の地点は，昨年度の調査範囲（1724調査地点）が不十分で急きょ追加したものである．1721調査地点の続きとなり，近代の大溝や古代の竪穴建物，ピットが検出された．遺物も，古代の土師器や須恵器である．

写真19　Ⅰ区調査区北半全景（南より）

写真20　Ⅰ区調査区南部全景（西より）

Ⅱ区とした工学部1号館南側の地点は，新築建物から既存の人孔に新しく管を繋ぐ工事である．

人孔の周囲は，設置時の掘方と予測され，掘方の範囲の見極めに注力した．結果は，今回の掘削範囲はすべて撹乱であった．西壁が掘方際で，地表下約1.2mが遺構面であることを確認した．遺物や遺構の検出はない．

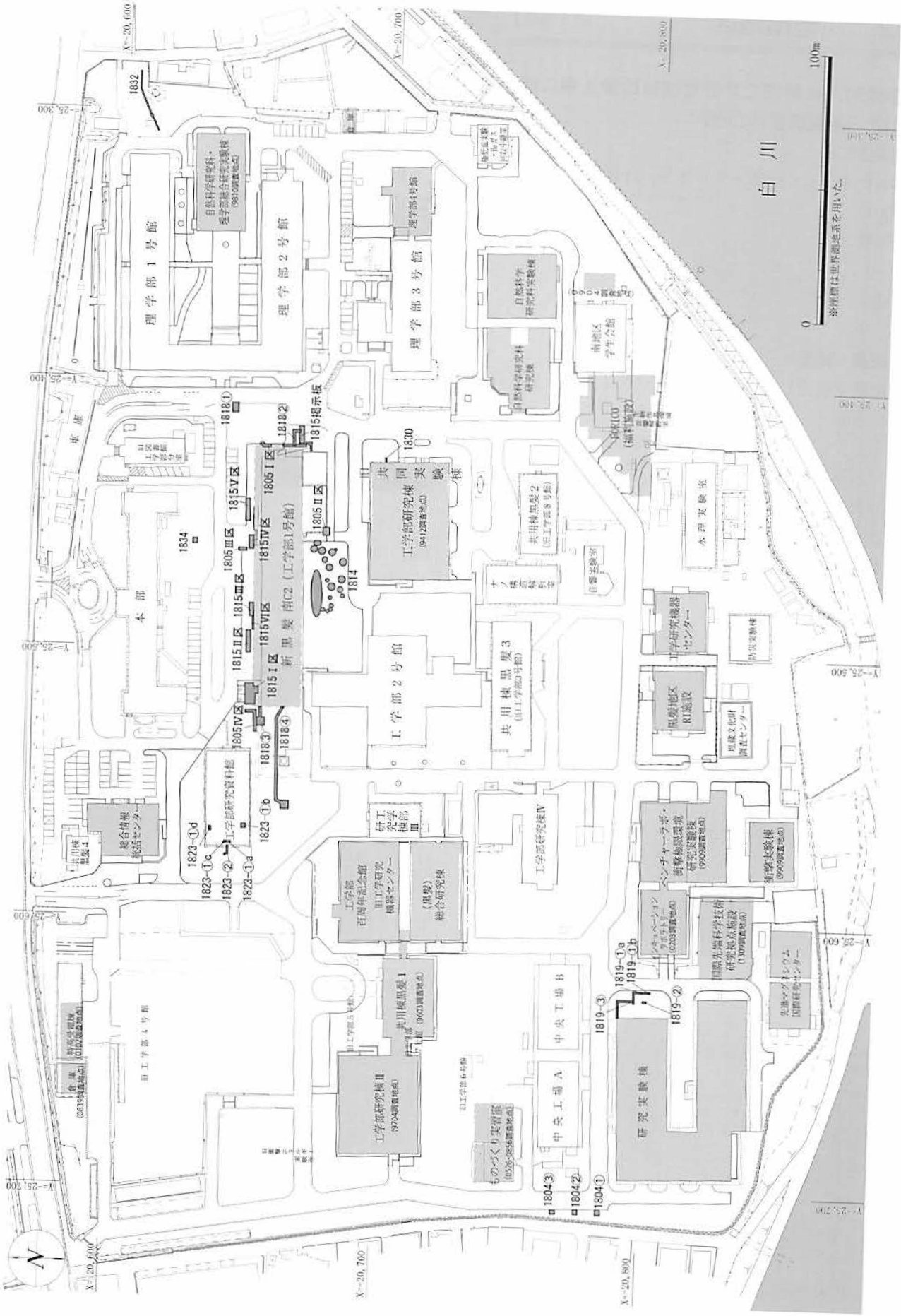
写真21　Ⅱ区掘削状況（西より）

Ⅲ区とした工学部１号館北側（1815調査地点Ⅳ区西隣）の地点は，新築工事により切断した既存の配管を，新築建物に再配管する工事である．遺構面を精査した結果，ピットが２つ検出された．

写真22　Ⅲ区配管検出状況（南より）

写真23　Ⅲ区完掘状況（南より）

図4　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）



Ⅳ区とした工学部１号館北西側の地点は，校舎新営に伴う新たな配管を，既設の枡に繋ぐ工事である．幅0.9m，地表下約0.85～1.0mで掘削した．東西管路の西端は既設管等が多数あったが，これらの上を通すこととした．ほか，全範囲が現代の埋土内であった．遺物や遺構の検出はない．

写真24　Ⅳ区作業風景（南より）

写真25　Ⅳ区東西管路西端部掘削状況（西より）

写真26　Ⅳ区南北管路掘削状況（北より）

写真27　Ⅳ区東西管路掘削状況（東より）

２．（黒髪南）黒髪南Ｃ２樹木移植に伴う立会調査（1814）

＜調査期間＞

2018年８月27～30日

＜調査面積＞

124.1㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

黒髪南Ｃ２棟の新設に伴う樹木移植に係る工事立会を実施した．

Ｃ２棟の建設にあたり大型重機の動線確保のために樹木を一時的に移植する必要があった．マキ，ツバキ，ヒイラギ，サザンカ，ツツジなど①～⑱のうち計14の低木や樹木について植樹を実施したが，このうちマキ以外はすべて現代埋土あるいは近世・近代の包含層である暗褐色土のみの掘削であった．また，南側の⑥，⑦，⑨，⑪の４本は搬入の障害にならないということで掘削を実施しなかった．

マキについてはいずれも抜根可能な深さまで根の周りを円形あるいは方形に地表下0.9～1.3mまで掘削し，根鉢を成形して取り上げた．このうち古代の包含層まで検出したのは⑧，⑫，⑮，⑯の４カ所のみであった．以下に詳細を述べる．

⑧では樹木を中心に重機によって3.0×3.0mの範囲を方形に掘削したところ，地表下0.8～0.9mで黒褐色の古代の遺物包含層を検出した．根鉢を作るために遺物包含層を20㎝程人力により掘り下げたところ古代の土師器が数点出土した．

⑫では樹木を中心とし重機により3.3×3.2mの範囲を掘削したところ，地表下0.75mで古代の遺物包含層を検出した．北側は撹乱していたため，地表下0.9mまでを掘り下げ，古代の遺物包含層を避けながら根鉢を作成し

た．遺物は出土しなかった．

⑮では樹木を中心に重機によって3.2×2.7mの範囲を掘削したところ，掘削範囲南壁付近に地表下40cmで近世・近代の包含層らしき暗褐色土を検出した．また，壁面で確認したところ地表下0.8mで古代の遺物包含層らしき黒褐色土が確認できた．本層からは数点の土器片が出土した．一方北側は鉄筋コンクリート基礎が地表下1.3mまで入り込んでおり，周囲が攪乱をうけていたため，掘削範囲を北側にしぼって根鉢を形成し抜き取った．

⑯は大型のマキで，樹木を中心に重機によって2.7×3.1mの範囲を掘削した．地表下0.7mで古代の遺物包含層と，その上面に幅70cm程の近代の溝が検出された．根の周囲が攪乱していたことから，根鉢を小さく整形し，中心で地表下90cmのところで根を引き上げた．古代の遺物包含層の掘削により少量の土器を取り上げた．

立会調査の結果，建物に近い北側にコンクリート基礎が入るなど深く攪乱を受けている場所があるものの，東西30m程の広い範囲で古代の遺物包含層が地表下0.7～0.9mで検出されており，過去の調査地点の調査結果を鑑みるにその下には遺構が残っているものと考えられる．

写真28　調査地遠景（南東より）

写真29　⑬ツツジ重機掘削作業風景（南より）

写真30　⑬ツツジ掘削状況（南西より）

写真31　⑧マキ遺物包含層検出状況（北より）

写真32　⑫マキ重機掘削作業風景（東より）

写真33　⑫マキ掘削状況（北より）

写真34　⑮マキ南側一部遺物包含層検出（北より）

写真35　⑯マキ掘削状況（東より）

3．（黒髪南）黒髪南Ｃ２新営その他工事に伴う発掘調査（1815）

＜調査期間＞

2018年９月27日～10月25日，11月16日～2019年３月４日

＜調査面積＞

104.10㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

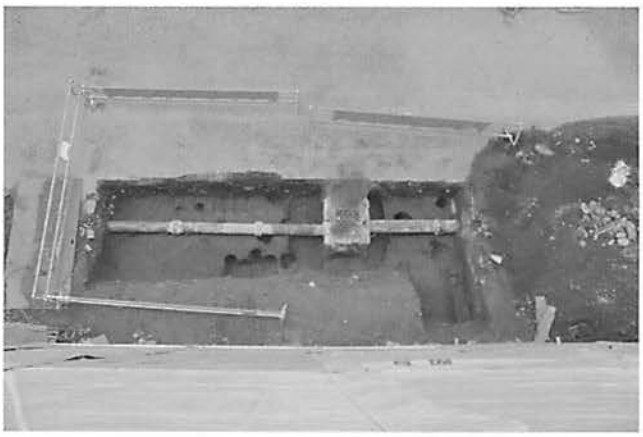
昨年度，熊本地震で被害を受けた黒髪南Ｃ２（工学部１号館）の建て替えのために発掘調査を実施した（1724調査地点）．この際，工事業者によって調査範囲は必要最小限に設定されていたが，不足が生じていることが判明したため，追加範囲について発掘調査を実施した．新築建物の出入り口のスロープなどに該当する部分で，前回の調査範囲の北側に，６つの小区画を追加する形となった．西から順次Ⅰ～Ⅴ区，その間をⅥ区とした．

Ⅰ区では，既設の枡と排水管および近代の赤煉瓦建物の基礎の残滓と考えられる礫群による撹乱があった．それ以外では，1724調査区と同様にピットが多数検出された．土師器・須恵器が出土した．

写真36　Ⅰ区完掘状況（南より）

Ⅱ区の状況は，Ⅰ区と同様で，既設工事による撹乱があり，破壊を免れた範囲で遺構を検出した．

写真37　Ⅱ区完掘状況（南より）



Ⅲ区は，工事業者が無断で土壌改良をおこなったため大半が重機により破壊された．調査区の西側では，1724調査地点で検出していた大溝の東半部が検出された．土師器・須恵器が出土した．

写真38　Ⅲ区完掘状況（東より）

写真39　Ⅲ区 M50大溝完掘状況（北より）

Ⅳ区では，竈を備えた古代の竪穴建物が検出された．1724調査地点では南壁と一部がわずかに確認されていたが，その続きである．ちょうど調査区に収まるかたちで，主軸は北より少し東へ振れている．土師器や須恵器が多数出土した．

写真40　Ⅳ区掘削状況（東より）

写真41　Ⅳ区 M62竪穴建物遺物出土状況（東より）

Ⅴ区は1/3ほどが既設の枡や排水管によって破壊されていたが，ピットや竪穴建物が検出された．竪穴建物は，調査区外に伸びることと撹乱による破壊によって全容は不明であるが，南北方向を向いていることは確認できる．硬化面が複数枚確認できた．

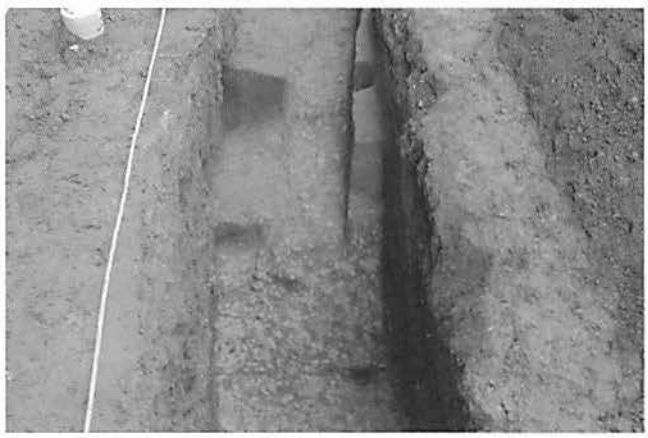
また，調査区東側を追加で掘削したところ，赤煉瓦建物の基礎が検出された．

写真42　Ⅴ区掘削状況（南より）

写真43　Ⅴ区赤煉瓦建物基礎検出状況（南西より）

Ⅵ区は，Ⅱ区とⅢ区の間で1724調査地点の北壁際に位置する．撹乱によりほとんど破壊されていた．大きな溝状遺構を確認した．

写真44　Ⅵ区完掘状況（東より）



このほか，新築建物の東側で掲示板設置のための掘削をおこなった．西寄りに共同溝があったほか，全範囲が埋土内で，埋蔵文化財への影響はなかった．

写真45　掲示板部近景（東より）

写真46　掲示板部全体掘削状況（北西より）

写真47　掲示板部東側掘削状況（東より）

写真48　掲示板部西側掘削状況（北より）

4．（黒髪南）黒髪南Ｃ２新営電気設備工事に伴う立会調査（1818）

＜調査期間＞

2018年11月12・13日，2019年１月29日，２月７・８日

＜調査面積＞

75.4㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

熊本地震の震災被害により建て替え・新営となった黒髪南Ｃ２（工学部１号館）の周辺５ヶ所で，外灯との電線接続などの電気配線工事をおこなった．

①地点は，黒髪南Ｃ２の東側の緑地帯に外灯を１基設置する工事である．外灯基礎部分と，近くの共同溝へ配線を繋ぐ部分の掘削について立会をおこなった．

外灯基礎部分は1.35×1.4mの範囲を地表下1.6mまで掘削したが，底は一面コンクリートが検出された．上部には瓦と赤煉瓦片が多量に廃棄されていた．配線部も現代埋土内で，遺構・遺物の検出はない．

写真49　①地点作業風景（北西より）

写真50　①地点外灯基礎部掘削状況（西より）

写真51　①地点配線部掘削状況（東より）

②地点は，黒髪南Ｃ２に南東隅から掲示板へ電線を繋ぐものである．Ｌ字状の配線ルートのうち，南北方向は旧共同溝と範囲が完全に重なってしまった．配線はこの中を通すことになった．東西方向は地表下0.65ｍ程度までは近・現代の埋土，以下は古代の遺物包含層である．一部で，赤煉瓦建物の基礎を検出した．掘削はこれ以上おこわないことを確認した．

写真52　②地点全景（西より）

写真53　②地点東西部古代遺物包含層検出状況（北より）

③地点は，黒髪南Ｃの西側，北よりの地点である．旧黒髪南Ｃ２跡地内にあたるこの付近に旧建物の配線が残っていれば，それから西側の外灯へ繋ぐということで掘削した．しかし，旧黒髪南Ｃ２解体時にすべて撤去されており，電線は検出されず，そのまま埋め戻した．

写真54　③地点作業風景（南西より）

写真55　③地点掘削状況（南より）

④地点は，黒髪南Ｃ２の北西隅に位置する．工事のため一度切断した配線を新設の共同溝に新たに繋ぐ工事である．ここでは配線を検出することができた．共同溝への配線部は1724調査地点の範囲内のため，埋蔵文化財への影響はなく，慎重に施工するように指示して終了した．遺構・遺物の検出はない．

写真56　④地点作業風景（北より）

写真57　④地点掘削状況（南より）

⑤地点は，黒髪南Ｃ２の西壁中央付近から，西へ約35ｍ，工学部資料館の南側緑地帯に位置する外灯へ配線を繋ぐ工事である．0.5～0.7ｍの深さで掘削した．

大半の範囲が旧黒髪南Ｃ２の跡地で，その他の範囲も撹乱であった．外灯から東へ3ｍの付近では，地表下0.3～0.4ｍで遺構面と同様の土が検出したが，既往の調査結果より浅いため，一度起こされた土と判断した．これより東側4ｍの範囲では，山砂の下に遺物包含層の可能性がある綺麗な黒色土が検出された．

これ以上の掘削はなく，すべて埋土内であった．

写真58　⑤地点東西東半部東半作業風景（東より）

写真59　⑤地点東西東半部東半掘削状況（東より）

写真60　⑤地点東西東半部西半掘削状況（東より）

写真61　⑤地点東西中央部掘削状況（東より）

写真62　⑤地点東西西半部掘削状況（西より）

写真63　⑤地点外灯基礎部掘削状況（北より）

5.（黒髪南）研究実験棟接地工事に伴う立会調査（1819）

＜調査期間＞

2018年11月27日

＜調査面積＞

15.68㎡

＜調査員＞

土野雄貴.

＜調査概要・結果＞

研究実験棟の接地極埋設に伴う工事立会である．掘削の深いパワーメッシュおよび接地棒打込み予定地点について立会を実施した.

①は0.7×4.0mを掘削したところ，地表下0.2mでコンクリートを確認したため，抵抗値が出なかった際の予備掘削予定箇所の中央付近を②として0.7×1.4m掘削した．しかし，地表下0.3mで同様にコンクリートを確認し，予備掘削箇所にも広がることが想定されたため，①内を部分的に斫って，接地棒を打込むことになった．①aは0.4×0.3m，２m北に①bを0.4×0.3m，それぞれコンクリートを斫った．コンクリートの厚さは0.3mで，撤去後に地表下0.75mまで掘削し，接地棒を打ち込んだ．いずれも現代埋土にとどまり遺跡は確認されなかった．③は0.7×1.5mを地表下0.75m掘削した．現代埋土内におさまり遺跡は確認されなかった．掘削が下位に及ばないことを確認したため，残りの作業については慎重な工事を指示して立会を終了した.

写真64　調査区近景（南より）

写真65　③掘削完了状況（南より）

6．熊本大学（黒髪北他）五高記念館他災害復旧工事に伴う立会調査（1823）

＜調査期間＞

2019年１月15日，２月18日（継続中）

＜調査面積＞

6.74㎡

＜調査員＞

土野雄貴.

＜調査概要・結果＞

国指定重要文化財である五高記念館他の災害復旧工事のうち，南地区の工学部研究資料館（以下「資料館」）の災害復旧工事に伴う工事立会である．資料館西側の２室（小資料室およびミーティングルーム）内側へ昭和53年（1978）に施工した補強を撤去して新たに施工し直すこととなり，遺跡に影響を与える恐れから立会を実施した.

①は，鉄骨架構用基礎の設置状況を確認するため，掘方内の一部について設計基礎（大資料室床面）下0.55mまでを掘削する工事である．①aは，ミーティングルーム北西隅を南へ1.4m掘削した．屋外からの空調冷媒線など既設構造物の影響によりやや明瞭でなかったが，設計基礎上0.02mで鉄骨架構用基礎コンクリート天場，設計基礎上0.01～設計基礎下0.05mで小口積みの赤煉瓦を確認した．資料館本体の赤煉瓦と同寸であり，改修の際に生じたものを基礎コンクリートの型枠として転用したとみられる．設計基礎下0.34mで型枠転用赤煉瓦を外し終わり，設計基礎下0.52mで基礎コンクリート底部を確認した．近代埋土内におさまる.

階段下の①bは，ミーティングルーム南東隅，２階へ上がる階段の基礎部分1.6×1.5mである．設計基礎上0.02mで基礎コンクリート天場，設計基礎上0.03m～同レベルにかけて小口積み状の型枠転用赤煉瓦を確認したが，内側も現代埋土であり掘方は明瞭でない．西側の1.5×0.7mについて，設計基礎下0.43mで型枠転用赤煉瓦を外し終わり，設計基礎下0.55mで基礎コンクリートの底部を確認した．近代埋土内におさまる.

①cは，小資料室の南西隅を壁に沿ってそれぞれ北に1.0m，東に1.0mを掘削した．設計基礎上0.02mで基礎コンクリート天場，型枠転用赤煉瓦とみられる赤煉瓦片

を設計基礎上0.07mでそれぞれ確認したが，赤煉瓦片上面にコンクリート製柱基礎が敷設されておりそれ以上の掘削ができなかった．

①dは，小資料室北東隅，トイレの設置されていた箇所に接する1.4×0.8mを掘削した．設計基礎下0.01mで基礎コンクリート天場，設計基礎下0.09～0.16mで長手積みの赤煉瓦を確認した．

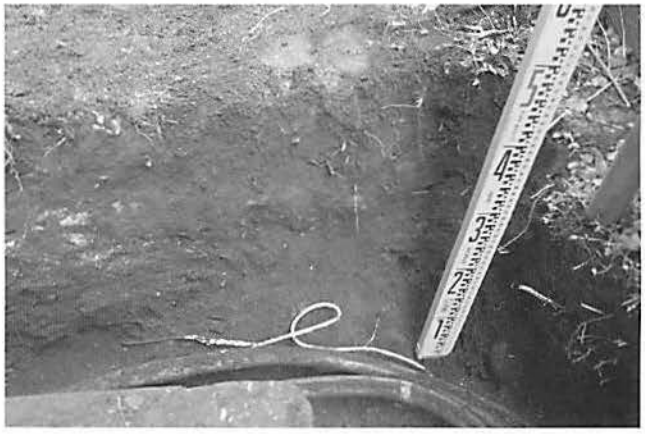
②は，資料館屋外の空調室外機配管更新に伴う掘削である．資料館西側に設置された室外機までの4.4×0.2～0.25mを掘削し，地表下0.3mで配管を確認した．地表下0.4mまで掘削したが，既設構造物の掘方と重なり現代埋土内におさまった．遺構・遺物は確認されていない．

写真66　①b作業風景（西より）

写真67　①b基礎天場・型枠赤煉瓦検出状況（西より）

写真68　②作業風景（北東より）

写真69　②土層断面（北より）



7．（黒髪南）黒髪南C3屋外排水設備改修工事に伴う立会調査（1830）

＜調査期間＞

2019年3月14日

＜調査面積＞

0.74㎡

＜調査員＞

土野雄貴．

＜調査概要・結果＞

黒髪南C3（工学部研究棟Ⅰ）東側に新設される屋外排水設備に，電線管を敷設するための工事立会である．電線管埋設予定箇所を0.4～0.5×1.48m，地表下0.35mまで掘削した．現代埋土内におさまり埋蔵文化財への影響はなかった．

写真70　掘削完了状況（東より）

8．（黒髪南）黒髪南 C3等屋外排水設備改修電気設備工事に伴う立会調査（1832）

＜調査期間＞

2018年２月26日

＜調査面積＞

12.43㎡

＜調査員＞

土野雄貴．

＜調査概要・結果＞

理学部１号館東に位置する屋外排水設備の配線改修に伴う工事立会である．構内道路部分を0.5×4.85m，構内道路東脇を1.0×1.0m，屋外排水設備までの0.5×11m，屋外排水設備南脇を0.5×7m掘削した調査区の大半は1310調査区（II８－１・II15・II19・II23）と重なっており，重複していなかったのは調査区の中間付近，約４ｍにおさまる．黒髪南地区北東隅は周囲に比べ若干下がっているが，当調査区は段差の南西隅付近を通過しており，重複のなかった箇所はちょうどその境目付近で確認された．段下部分は地表下0.67mまで現代整地層，段上部分は1.2×0.2mにかけて地表下0.35mで近世包含層，地表下0.5mで古代の遺物包含層を確認した．地表下0.64mまで掘削したが遺構・遺物は確認されなかった．

構内道路は地表下0.65m掘削し，道路の中ほどからコンクリート製の構造物基礎を地表下0.45mで確認した．撤去された中継ポンプ室の基礎とみられる．すべて現代埋土内におさまる．基礎は必要な箇所のみ斫り，撤去はしないことを確認した．東脇は地表下0.72m，屋外排水設備南脇は地表下0.67mをそれぞれ掘削したがいずれも現代埋土にとどまった．構内道路東端の浸透側溝は下端が地表下0.45m，その下位は地表下0.6mまで砕石層である．配線は側溝下の砕石層に通すため遺跡に影響を与える恐れがないことを確認したところで，残りの作業については慎重な工事を指示して立会を終了した．

写真71　遺物包含層確認状況（南西より）

写真72　遺物包含層付近土層断面（北より）

9．（黒髪南）本部南側排水桝等撤去工事に伴う立会調査（1834）

＜調査期間＞

2019年３月20日

＜調査面積＞

4.6㎡

＜調査員＞

土野雄貴．

＜調査概要・結果＞

黒髪南Ｃ2（工学部１号館）取り壊しに際して設置された仮設汚水桝を撤去するための工事立会である．

桝の周囲2.3×2.0mを掘削した．調査区西側0.1mから地表下0.15mで桝掘方を確認したが，北側および東側からは確認されなかった．掘方外側は掘削を回避している．南側0.3mからはコンクリート製共同溝を地表下0.5mで確認し，東側0.2mからは地表下0.82～0.85mで既設汚水管を確認した．北側中央付近には仮設排水管が地表下0.65mまで沈降し，西端には電気ケーブルが設置されている．北側および東側を地表下1.1mまで掘削したが，すべて現代埋土内におさまり遺構・遺物は確認されなかった．現地での協議の結果，これ以上の掘削はなく桝本体を撤去できることを確認したため，残りの作業については慎重に行うよう指示して立会を終了した．

写真73　調査区近景（南より）

写真74　掘削完了状況（南より）

Ⅱ－３　本荘北地区　（図５参照）

１．（医病）基幹・環境整備（旧管理棟等取り壊し）工事に伴う立会・発掘調査（1708）（継続）

＜調査期間＞

2017年４月２日～７月19日

＜調査面積＞

7,681.2㎡

＜調査員＞

吉留　広・土野雄貴・山野ケン陽次郎.

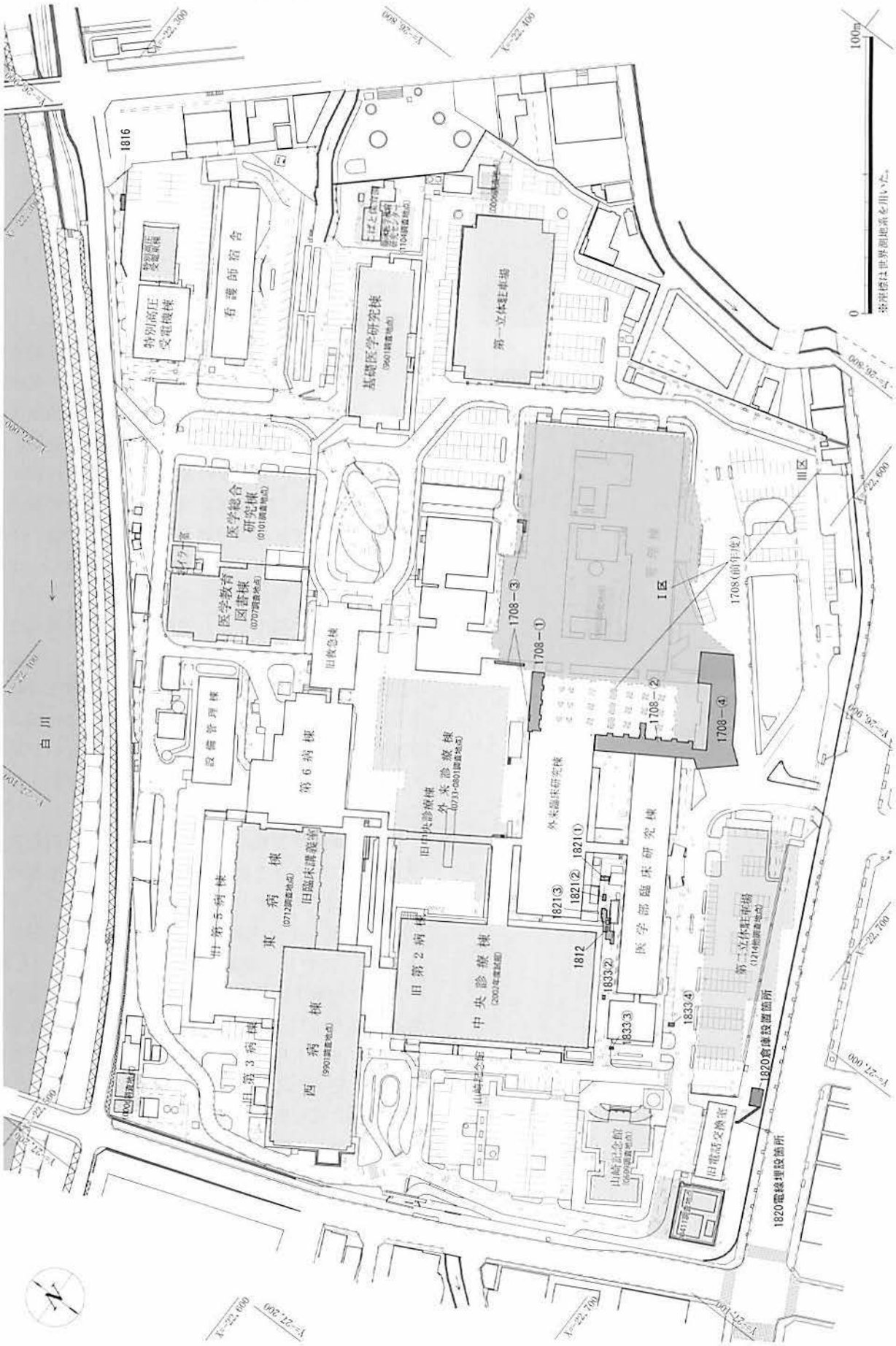
＜調査概要・結果＞

昨年度に引き続き，旧管理棟・旧外来臨床研究棟の基礎・外壁の取り壊しや環境整備に係る立会・発掘調査である．昨年度旧管理棟の範囲をⅠ区，旧外来臨床研究棟の範囲をⅡ区，恵和会の建物北側をⅢ区と分別し調査をおこなっていた．今年度の調査は，①Ⅱ区西側の基礎・外壁・舗装撤去．②Ⅱ区北端の基礎・外壁の撤去．③Ⅰ区中央北端とⅡ区北側の雨水管・雨水桝新設．④Ⅱ区南側スロープ・スロープ東側の樹根撤去の４つの工事からなる．これらを順に説明する．

①旧管理棟で検出された道路遺構が旧外来臨床研究の北側に延びると予想されたため，昨年度，解体前に基礎周辺の試掘をおこなった．地下ピットの状況は地表面が露出しており，１階のフロアレベルから2.1m深さである．試掘の結果，地表面を15cm掘削するとオリーブ褐色砂層の地山が検出され，そこから道路遺構の下部が確認された．

旧外来臨床研究棟の建物内側の基礎は，円柱状の地中杭の上にフーチングが乗った構造である。当初の計画では，機械式フォーク（ハサミ）で地中杭とフーチングを切断してフーチングのみを撤去し地中杭は残す予定であった．しかし，遺構が検出されたことで，機械式フォークを地中に差し込む作業は，遺構を破壊する可能性が高くなった。さらに１階の床を解体する作業も崩れたコンクリート片や重機の往来で遺構を傷つけると考えられた．そのため対策として，建物上部を撤去する際は，１階の床に穴を開け地下ピットを砕石で埋めてクッションとして地表を保護し，フーチングはミニバックホーでフーチング周辺の砕石を除去しながらフーチングのみを露出させ斫って撤去することで，重機が接触しないようにした．壁状に外側を一周する基礎（以下外周基礎）は，通常どおり調査をおこなったのち撤去した．旧外来臨床研究棟西側のフーチングと外周基礎の撤去は，地下ピットの試掘結果をもとに撹乱埋土を除去し遺構の有無を調

図５　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）



べたが，掘方内におさまり遺構・遺物は検出されなかった．旧外来臨床研究棟と旧医学部臨床研究棟の接続部分を幅５×3.5m，地表下２m掘削した．北側の壁から２つの建物掘方の隙間に逆Ｖの字状に地山が残っていた．遺構・遺物は検出されなかった．

②外来臨床研究棟北側の外周基礎は地中杭から独立しており真上に引き上げれば撤去は可能であったが，外周基礎は外来診療棟が近接しており，重機で真上に引き上げることができなかった．そこで外壁を，機械式フォーク（ハサミ）で掴み2.5m程南側へ引きずり出すこととなったが，引き出すために必要な幅2.5m内は，旧管理棟で検出していた道路遺構のルート上で，工事の際に遺構を壊す可能性があった．そのため幅2.5m，長さ25mの範囲について発掘調査を実施した．調査の結果、道路面が４枚残存しており，側溝・波板状痕跡や窪地をロームまじりの土で埋めた補修の痕跡と考えられる遺構が検出された．陶磁器・土師器・須恵器・獣骨など，多くの遺物が出土した．

③旧管理棟と外来臨床研究棟を撤去後，旧管理棟北側中央付近の現駐車場と外来診療棟玄関付近に水溜りができるようになり，急遽申請の変更を行い改修のため調査を実施した．旧管理棟北側中央の箇所は、横断歩道南側の既存の雨水桝へ水を流すため，既存の雨水桝から南側に幅3.3×0.8mの範囲と直角に西側に曲がる幅5.5×0.9mのＬ字状の範囲を地表下0.55～0.6mまで掘削した。屈曲部に新たな桝を据えるため0.9×0.9mの範囲を地表下0.75mまで掘削した．現代埋土内におさまったが，屈折部分は近代の包含層と思われる暗褐色土を確認した．遺構・遺物の検出はなかった．外来診療棟玄関付近は，玄関の南側縁石を基点に東側に3.5m，南側に0.5mに位置する既存の雨水桝から幅0.8×11.4mを地表下0.35～0.5mと徐々に深くなるように掘削した．掘削は砕石を含む現代埋土内におさまった．現管理棟の北東隅から、北側に1.7m東側に３mの所に既存の雨水管があり，ここに玄関付近に溜まる水を流すため勾配が付いている．この雨水桝から東側に１m，南側に0.6mの範囲を地表下0.55m掘削した．掘削は撹乱埋土内におさまった．遺構・遺物は検出されなかった．

④旧外来臨床研究棟の車寄せ部分に相当する．2005年度の調査と一部が重複している（0529調査）．上物撤去後の外観から，北から順に車寄せ基礎（北）・車寄せ基礎（南）・旧花壇基礎・南擁壁とした．このうち，車寄せ基礎（北）は東西に長く，撤去作業に支障を来すことから途中で切断することになったため，それぞれを車寄せ北基礎（西）・車寄せ北基礎（東）とした．

車寄せ北基礎（西）は，南脇を0.8m幅で掘削した．地表下0.43mでベースを検出した．検出面は現代埋土である．外来臨床研究棟に接していた辺りでヒューム管を検出した．ベース天場に乗っている．捨てコンは地表下0.62mで検出されたが，ヒューム管付近では深く，地表下0.76m付近で検出した．検出面は近代埋土であった．遺構は確認されず．基礎は重機を用いて手前に引き抜き撤去した．

車寄せ北基礎（東）は，両脇を1.7～2.5m幅で掘削した．西端には直交する基礎があったようだが，0.7mほどですでに撤去されており，その先は残っていなかった．このすぐ横から，地表下0.4mでベースと，ベースに乗るヒューム管を検出した．検出面は現代硬化面である．このため，基礎掘方が明瞭に確認できた．掘方は，南脇で0.52m幅，北脇で0.47m幅をそれぞれ確認した．捨てコンは，地表下0.6mで検出されたが，ヒューム管付近では地表下0.75mで検出した．

掘削箇所の東側から，車寄せ北基礎とは異なる別のコンクリート基礎を検出した．幅は0.5m，厚みは0.1mほどだが，0.1mほど下からもう一つコンクリート基礎が出土した．0.3mほど東にずれているが，両者とも1.7m幅の掘方内に収まっており，ベースを持たず，その下は現代砕石層であった．いずれの基礎も，車寄せ北基礎（東）によって切られており，車寄せ北基礎（東）本体をまたいだ南脇の掘削では，この掘方の続きが検出された．ここまで確認したところで，基礎は重機を用いて上方へ引き上げ撤去した．

車寄せ南基礎は，両脇を0.8m幅で掘削した．最も深いところで地表下0.91mから現代硬化面とベースを検出し，0.5mほどの幅で掘方を確認できた．他の遺構は確認されなかった．ここまでの結果から，ベースを露出させなくても下位へ影響を及ぼすことなく基礎を撤去できることを確認できたため，残りの作業については慎重な工事を指示した．

旧花壇基礎は，最初に内側を掘削した．花壇内埋土はすべて現代埋土である．花壇北側の基礎は地表下0.4mでベースを確認したが，南側の基礎はベースを持たず，その下は砕石層であった．検出面は撹乱された近代埋土である．捨てコン検出のため掘り下げていくと，地表下0.5～0.56mで直径1.6～2.0mほどの栗石分布を検出した．レンガ片を含んでおり，昭和前期ごろの所産とみられるが，状態は良好ではなかった．地表下0.63mで捨てコンを検出した．検出面は近代埋土である．

次いで花壇の外側を掘削した．北脇は0.8m幅で掘削し，内側と同じく地表下0.4mでベースを検出した．捨てコ

ンを検出するためさらに掘り下げたところ，途中で捨てコンの幅が広がっており，その付近では最大1.3m幅で掘削した．地表下0.65mで捨てコンを検出した．掘削箇所の中央～東にかけて，地表下0.55～0.57mで近代埋土を検出している．中央付近には別に現代掘方があり，中から骨が１本出土した．人骨ではないとみられ，風化が進んでおらず新しい印象を受ける．旧花壇基礎の内側で検出された近代栗石との位置関係から，栗石までえぐって建物基礎を撤去した痕跡である可能性があげられる．ここまで確認したところで，基礎は重機を用いて引き上げ撤去した．

南擁壁付近は，0529調査地点と重複する部分である．南擁壁の両端からそれぞれ５mほどについて，北脇を0.8m幅で掘削した．地表下0.2mでベース，地表下0.38mで捨てコンを検出しており，その下は現代砕石層であった．ここまで確認したところで，重機を用いて引き抜き撤去した．

これらの撤去工事の終了後，工事出入口に敷かれていた養生鉄板を撤去中に，未除去の樹根１個が発見されたと工事業者から連絡があった．このため，樹根除去に伴う工事立会を急遽実施した．樹根はすっかり枯れてしまっており，伐採されてからかなりの時間が経過しているとみられる．地表下0.45mまでの掘削で除去できた．旧管理棟車寄せの西側上り口の脇あたりに位置していたようであるが，車寄せ建設の際には既に伐採されていたとみられる．現代埋土内にとどまっており，遺跡への影響はないことを確認したところで立会を終了した．

写真75　臨床研究棟西側基礎・フーチング撤去状況（北より）

写真76　旧管理棟・外来臨床研究棟接続部分掘削状況（南東より）

写真77　旧管理棟北側雨水管・雨水桝新設箇所掘削状況（西より）

写真78　旧管理棟中央北側雨水桝新設箇所土層断面（北西より）

写真79　旧管理棟北西端側側溝新設箇所仮囲い内側掘削状況（南より）

写真80　旧管理棟北西端側申請変更箇所仮囲い内側掘削状況（南より）

写真81　旧花壇捨てコン検出状況（西より）

写真82　車寄せ北基礎（東）捨てコン検出状況（西より）

2．（医病）管理棟前ガス管復旧工事に伴う立会調査（1812）

＜調査期間＞

2017年６月27日

＜調査面積＞

2.2㎡

＜調査員＞

吉留　広．

＜調査概要・結果＞

管理棟前の既設受水槽と中央診療棟の間にボーリング調査をおこなっていた．その際ガス管を破損してしまっい，それを復旧させる緊急工事に伴う立会調査である．

既設受水槽の北西端に幅2.0×0.7ｍの範囲を地表下0.95ｍまで掘削した．ガス管の破損箇所は掘削範囲のほぼ中央でみつかり，地表下0.8ｍのところで管上を確認した．ボーリングはガス管の北側にある汚水管も同時に破損させておりこれらの穴をふさぐ作業スペースとしてさらに15㎝掘削をおこなった．すべて管の掘方埋土の山砂内におさまっており，遺物包含層に影響はなかった．既設受水槽の真下には，昭和28年の洪水層と思われるラミナ構造の堆積土が確認された．遺構は検出されなかったが，近世の磁器片を１点検出した．

写真83　作業風景（北東より）

写真84　掘削状況（北より）

写真85　土層断面（北より）

3．66kV 銀座橋熊大医学部線増架工事に伴う立会調査（1816）

＜調査期間＞

2018年11月５日

＜調査面積＞

12㎡（8.4㎡）

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

2014・2015年度にかけて実施した電気ケーブルの配線やり換えおよび増加のための工事に係る立会工事を実施した．調査地は本荘北地区の北東隅にある特別高圧受電機棟の北東側の法面裾部分に相当する．2015年度に実施した1423調査地点の施工範囲に重複するが，施行掘削深度が地表下1.1mと深く，周囲からは地表下１mで古代の遺物包含層が検出された調査事例があるため，目的とする電気ケーブルの探索の際に遺物包含層が破壊されぬよう立会う必要性が生じた.

重機によって東西5.6m，幅1.5mの範囲を掘削したところ，目的のケーブルを地表下63cmと１mで発見した．周囲を人力で掘削しながら最深で地表下1.1mまで掘削したが，すべて1423調査地点時の掘方埋土内におさまった．遺物として現代の磁器を数点確認した.

写真86　重機掘削風景（北より）

写真87　調査区掘削状況（北より）

4．（医病）倉庫設置工事に伴う立会調査（1820）

＜調査期間＞

2018年12月7日

＜調査面積＞

36.51㎡

＜調査員＞

土野雄貴.

＜調査概要・結果＞

第二立体駐車場と災害備蓄倉庫の間に設置予定の倉庫と，倉庫へ供給される電源を災害備蓄倉庫から引くための電線埋設に伴う工事立会である．電線埋設箇所を①，倉庫設置箇所を②とした.

①は0.6×10m，地表下0.4～0.5mを掘削した．災害備蓄倉庫の南２mほどから地表下0.1mで汚水桝，地表下0.2mで鉄管を確認したが，地表下0.45mで桝の横・鉄管の下を通せることが確認できた．現代埋土内におさまり，これら以外の構造物はなく遺物は確認されなかった.

②は4.6×6.6m，地表下0.4～0.45mを掘削した．すべて現代埋土である．近世・近代の陶磁器・瓦片を数点出土したが遺構は確認されなかった．これ以上の掘削がないことを確認したところで立会を終了した.

写真88　調査区近景（北より）

写真89　①掘削完了状況（南より）

写真90　②掘削完了状況（西より）

5．（医病）管理棟南側屋外ガス管改修工事に伴う立会調査（1821）

＜調査期間＞

2018年12月10日・11日

＜調査面積＞

20.15㎡

＜調査員＞

土野雄貴．

＜調査概要・結果＞

旧臨床研究棟と管理棟の間に建つ受水槽の解体に先立ち，支障となることが想定された既設ガス管の一部盛替えに伴う工事立会である．先に実施された1812調査区と一部重なっている．

①は既設管の埋設状況確認のため，管理棟南スロープの西側昇降口の東3.6m付近を1.1×2.3m掘削した．スロープの南擁壁から1.4m南において地表下0.8mで既設管を確認し，掘削を終了した．現代埋土内におさまり遺跡への影響はない．

②は管理棟南スロープの西側昇降口横付近0.9×1.8mを地表下0.45m掘削したところで埋設物表示テープを確認，管路の方向を確認して掘削を終了した．現代埋土内におさまり遺跡への影響はない．

③は管理棟南スロープの西側昇降口の西3.85m付近を掘削した．水道管など他の既設管を確認しながら1.6m幅で掘削し，地表下0.8mでガス管を確認した．地表下0.95mまで掘削したが現代埋土内におさまる．2.7mほど西で既設ガス管は南へ折れ，既設管露出の掘削と盛替え区間の掘削とに分かれる．既設ガス管は1.8mほど南へ延び，受水槽の基礎の北0.2m付近を3.6mほど西へ進んだのち再び南に曲がる手前が1812調査区と重なる地点である．ガス管は1mほど南で西に向きを変え，2.8mほど先で盛替え区間と合流する．ガス管は途中で高さが変わり，1812調査区付近では地表下0.8mで確認した．埋土はすべて現代であったが，受水槽西側の調査区南壁から地表下0.27mで暗褐色土，地表下0.63mで黒褐色土を確認した．

盛替え区間は約0.6m幅で掘削したが，3.6mほど西で中央診察棟の基礎周りに残置された矢板に突き当たる付近までガス管が地表下0.7mに残置されてあった．地表下0.85mまで掘削したがすべて現代埋土であった．矢板から向きを変え1.5mほど南へ進んだあたりが前述の1812調査区と重なる地点である．その西側は既設管掘方を含め2.5×2.5mを掘削した．地表下1.0mで花崗岩由来の砂土（以下「山砂」）を確認しており，下位にまで及ぶようである．南西隅で下から上がってくる鉄管を確認しており，山砂はこの掘方埋土とみられる．鉄管は1mほど南へ向かった後，地表下0.7mで既設ガス管と平行するよう向きを変えており，そこから1.1m幅を1.0m西に掘削したところが盛替えの終点となる．接続箇所付近は地表下1.0mまで掘削したが下位は山砂であった．ここまで遺構・遺物は確認されず，これ以上の掘削がないことを確認したところで立会を終了した．

写真91　調査区近景（東より）

写真92　③西側掘削完了状況（東より）

写真93　③西側土層断面（北より）

写真94　③西側土層断面（北より）

写真95　③掘削完了状況（東より）

写真96　④配管検出状況（北より）

6．（本荘北）旧臨床研究棟取り壊しに伴う支障配管撤去工事１に伴う立会調査（1833）

＜調査期間＞

2019年３月５日

＜調査面積＞

4.85㎡

＜調査員＞

土野雄貴．

＜調査概要・結果＞

旧臨床研究棟取り壊しに際して支障となる配管の撤去に伴う工事立会である．管理棟および中央診療棟と旧臨床研究棟との間に敷設されている給水管と，旧臨床研究棟南側のガス管の撤去とからなるが，このうち管理棟南側に位置する①は，1821調査により遺跡へ影響を与える恐れがないことを確認できているため慎重に工事を進め，残る②③④について立会を実施した．

②は中央診療棟南を0.9×1.5m掘削した．地表下0.97mで給水管を確認し，管下を地表下1.2mまで掘削したが，現代埋土内におさまり遺跡への影響はなかった．

③は旧臨床研究棟南側を1.35×2.0m掘削した．調査区の南側から地表下0.6mで近代整地層とガス管掘方を確認し，地表下0.65mでガス管を確認した．掘方内を地表下0.97mまで掘削したが，床砂内におさまり遺構・遺物は確認されなかった．

④は旧臨床研究棟北西隅付近を1.0×1.5m掘削した．地表下0.85mで給水管を確認し，管下を地表下1.0mまで掘削したが，現代埋土内におさまり遺跡への影響はなかった．以上の成果から，残りの工事については慎重な工事を指示して立会を終了した．

Ⅱ－4　大江地区（薬学部）（図6参照）

1．(大江北・大江南)樹木移植に伴う立会調査(1803)

＜調査期間＞

2018年5月29日

＜調査面積＞

3.31㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

薬学部敷地内の樹木を大江北地区から南地区へ，または大江北地区内で移植する事業である．掘削する地点が多数広域にわたるため，各地点で最も深く，広く掘削する樹木や移植先を中心に立会調査を実施した．

①地点：移植先のなかでもっとも深く大きい箇所の立会をおこなった．1.1×1.2mの楕円形に，地表下0.8mまで掘削した．地表下0.54mまでは近世～近代耕作土，以下は水田の床土と考えられる灰色の土層で，掘削予定の0.8mは鉱物の沈着により固まった層であった．この水田の底で土師器片がわずかに出土した．遺構等は確認されず，この掘削場所の南側での掘削は，これより浅いことから他の掘削も埋蔵文化財への影響はないと判断した．

②地点：北地区の藩滋館西側に位置する緑地帯は，4本の樹木の移植先で，このうち1か所について立会をおこなった．直径0.8mの円形に，地表下0.3mまで掘削した．ガラス片などがある現代の土層内であった．他の3本についても同じ深さ掘削で，他の掘削も埋蔵文化財への影響はないと判断した．

③地点：北地区の西門近くの移植元では，最も大きな樹木の抜根の立会をおこなった．直径1.4mの範囲で，地表下0.5mまで掘削して根鉢を作り，抜根をおこなった．埋土内で，遺構・遺物の検出はない．他の樹木はこれより小さく，同様の深さで抜根可能なことから，他の樹木についても埋蔵文化財への影響はないと判断した．

④地点：北地区の東側，薬草園倉庫の北東では，苗木程度の小さな低木を2本抜根する予定であった．東側の低木の抜根をおこなった．スコップで簡単に起こすことができた．直径0.3m，地表下0.25程度の掘削で遺構・遺物の検出はない．もう一つの低木についても，同様に抜根できると判断し，掘削良しとした．

⑤地点：大江E2棟の南に位置する緑地帯の北東隅の低木一つを抜根する予定であった．この低木も，スコップで簡単に起こすことができた．0.4×0.5m，地表下0.25mの掘削で，遺構・遺物の検出はない．

写真97　①地点作業風景（南より）

写真98　①地点掘削状況（南より）

写真99　②地点作業風景（南東より）

写真100　②地点掘削状況（南より）

図6　大江地区（薬学部）における調査地点配置図（1/2000）

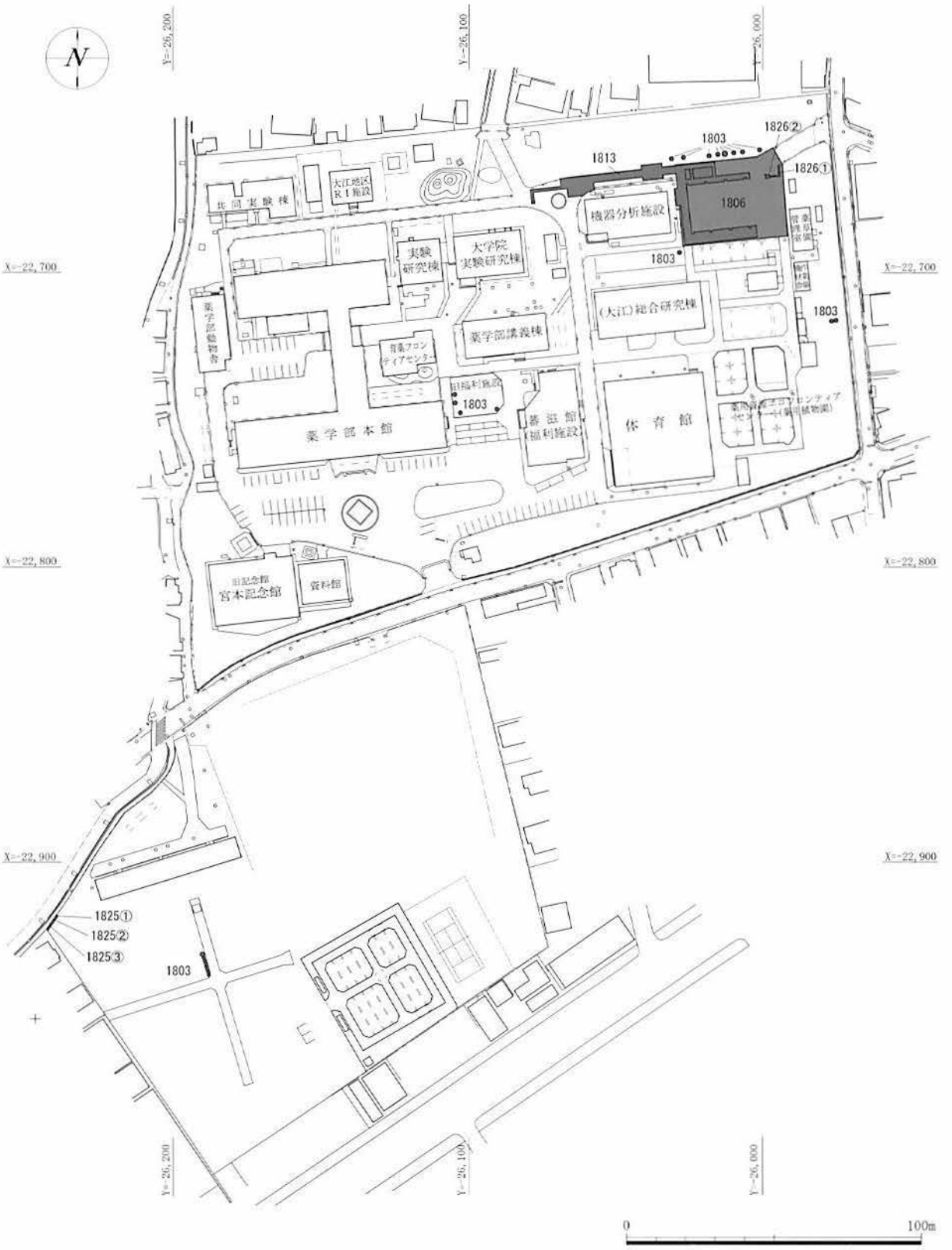


写真101　③地点作業風景（東より）

写真102　③地点掘削状況（南東より）

写真103　⑤地点掘削状況（南東より）

写真104　⑤地点掘削状況（東より）

2．（大江北）自然共生型産業イノベーションセンター新営その他工事に伴う立会調査（1806）

＜調査期間＞

2018年６月７～12日

＜調査面積＞

1115.69㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

大江北地区北東に位置する機器分析施設の東側に建設予定である自然共生型産業イノベーションセンターの新営その他工事に係る調査を実施した.

本工事は埋蔵文化財保護法第93条に対し，熊本市教育委員会文化振興課から慎重工事での指導が下りた．しかし，工事業者が重機掘削を開始したところ，赤煉瓦基礎が数メートルにわたり確認されたため，熊本大学施設管理課および埋蔵文化財調査センターへ連絡があった．６月７日，当センターが現地を確認したところ本基礎が1925年に設立した熊本薬学専門学校に関連する建物基礎である可能性が高いことが判明した．工事によって基礎の大部分が破壊される予定であったため，当センターと熊本市教育委員会文化振興課職員との協議の結果，赤煉瓦基礎の検出位置について簡易な記録保存を実施することとなった.

約33m ×22m の工事掘削範囲の西端から長さ５m，幅45cm 程の赤煉瓦基礎が南北に２列並行する形で地表下65cm から検出された．また，この赤煉瓦基礎から南へ５mの位置から長さ3.7m，幅40cmの煉瓦が付随しない厚さ10cm程のコンクリート基礎が地表下60cm から検出された．これらの基礎列の全容を明らかにするために，西から東へ基礎を追うようにして重機掘削をおこない，基礎全体を検出した．この際，発掘作業員６名が赤煉瓦の清掃作業や測量補助をおこなった.

北側の赤煉瓦基礎は調査区西端から東へ16mの位置で南に屈曲し，8.6m南に並列する赤煉瓦基礎と繋がったため，両者が同一の建物基礎であることが判明した．念のため赤煉瓦基礎の南東隅から東へ５m程重機掘削をおこなったが，基礎の続きは確認できなかった．本煉瓦基礎南東隅から3.2m北側では本基礎に直行する形で幅40cm のコンクリート基礎が東西方向に1.6m程確認できた．本コンクリート基礎は赤煉瓦基礎を被覆することから，前者が後者より新しいことが把握できたが，赤煉瓦基礎より東側にはその続きが確認できなかった．本調査により赤煉瓦基礎は少なくとも東西16m以上，南北9.6m以上で，工事掘削範囲の西側へ向かってさらに伸びる

ものとみられる．

赤煉瓦基礎の構造について断面や露出面で確認したところ，５～20cm程の円礫を礎石とし，その上に厚さ約25cmの小礫混じりのコンクリート基礎を据え，赤煉瓦を平積みにしていることが確認できた．赤煉瓦は１段分しか残存していなかったが，赤煉瓦平面にモルタルや欠けた赤煉瓦が付着していたことから，少なくとも２段以上積み重なっていたことが分かる．最下段において内側では長手が，外側では小口が側面に露出するように積まれていた．また，赤煉瓦の平部分表面には縮緬状の調整痕が確認でき，機械成形によることが判明した．基礎を構成する普通煉瓦17点を計測したところ，小口幅10.6～11.2cm，長手幅22.2～23.2cm，高さ5.4～6.0cmであった．遺物として，本赤煉瓦を数点取り上げている．

一方，赤煉瓦基礎の南に検出された厚み10cm程のコンクリート基礎は，部分的に後世の破壊を受けながら工事掘削範囲の東側へ向かって伸びており，西端から27.8mの位置で南東隅部を確認することができた．隅部の様子から本位置が建物の南東端にあたると想定でき，基礎は直行して北側へ伸びる可能性があったが，煉瓦を伴わないことから，赤煉瓦基礎より新しい時期の建物であると判断し，検出を終了した．

本調査では，掘削範囲と基礎の検出位置を測量・図化し，土層の記録をおこなった．本調査基礎の由来について大学史などの文献に掲載された地図と比較したところ，赤煉瓦基礎は1925年に設立した熊本薬学専門学校の校舎のうち，1924年に竣工した薬化学動植物科学実験室であることが判明した．木造平屋建ての構造で，昭和２年にはドラフトチャンバーが２機敷設されている．本建物は1945年７月１日の空襲によりアメリカ軍の焼夷弾攻撃によって焼失したことが記録されている．また，南側のコンクリート基礎は1949年に発足した熊本大学薬学部の校舎のうち，1951年に竣工した薬品分析学教室であることが判明した．

写真105　調査地西側基礎検出状況（西より）

写真106　作業員清掃風景（東より）

写真107　赤煉瓦基礎全景（西より）

写真108　コンクリート基礎全景（西より）

写真109　赤煉瓦基礎南側検出状況（東より）

写真110　赤煉瓦基礎北側検出状況（東より）

写真111　赤煉瓦基礎東側検出状況（北より）

写真112　コンクリート基礎検出状況（東より）

写真113　赤煉瓦基礎立面（北より）

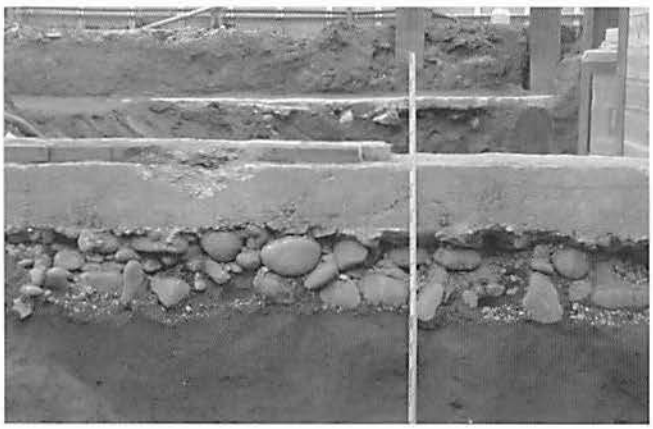
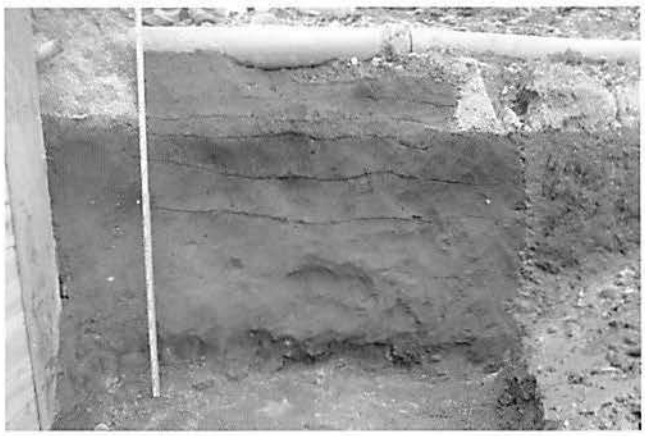


写真114　調査地点北西部北壁土層断面（南より）



3．（大江北）イノベーションセンター新営機械設備工事に伴う立会調査（1813）

＜調査期間＞

2018年８月17日，11月27日

＜調査面積＞

359㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

大江北地区の機器分析施設の北側道路から新設予定のイノベーションセンター周辺の給水管，排水管，ガス管，汚水中継槽に係る工事立会を実施した．

1728調査地点および1806調査地点での調査により，周辺の堆積状況が明らかとなっており，地表下約0.9mで検出される黒褐色土中からは遺物が出土しないことが判明していた．そのため本工事範囲のうち，給水管，排水管，ガス管の施工範囲については工事業者に掘削方法を指示するに留めた．ただし，機器分析施設と建設予定地の間の排水管施工箇所（トレンチ１）については1806調査地点の延長が確認できる可能性が高かったため立会を実施した．また，機器分析施設北東の汚水中継槽施工箇所（トレンチ２）についても工事施工深度が2.5mと深かったことと，土層の把握のために立会をおこなった．

トレンチ１は南北3.7m，東西80cmを重機で掘削したところ，地表下0.55mで1806調査地点において検出した赤煉瓦基礎の西側の続きが検出された．トレンチの東側半分は1806調査地点の際に設けた矢板の抜き痕で攪乱していた．西壁の土層を確認したところ，地表下0.5mで検出された褐色土が斑に入る茶褐色土を掘りこむ形で煉瓦基礎が据えられていた．茶褐色土は近代の陶磁器片を含むことから本層が近代以降の堆積層であることが明らかで，煉瓦との新旧関係にも問題がない．赤煉瓦は１段分のみ残存していたが，その上にも煉瓦の欠片が多く出

土したため，少なくとも２段分は存在したことが分かる．褐色土の下には褐色粒子や炭片を含む茶褐色土堆積しており，近世の堆積層かと思われた．

トレンチ２は東西7m，南北3mの範囲を重機によって掘削した．調査区北側では赤煉瓦の接着痕跡が残るコンクリート基礎が地表下50cmで東西方向に3.5m程検出された．1806調査地点で検出した建物基礎のさらに北に位置しており，南北に並列することからも大正13年に竣工した熊本薬学専門学校の生薬植物学実験室の建物基礎であると推測される．本調査地点ではトレンチ南西側を地表下２mまで深堀した．トレンチ南側で土層を確認したところ，地表下１mまではガラスや炭の混じる近代埋土が堆積しており，地表下１m～1.6mでは暗褐色土が西側に向かってやや傾斜するように堆積していた．そのさらに下位には砂混じりの暗褐色土が水平に堆積し，地表下約1.9mで硬質の砂層が検出された．一部深堀をおこなったが遺物は出土せず，古代の遺構や遺物包含層も確認できなかったため工事業者に引き渡した．

写真115　トレンチ１調査区遠景（北より）

写真116　トレンチ１掘削状況（北より）

写真117　トレンチ１掘削レベル（東より）

写真118　トレンチ２重機掘削作業風景（西より）

写真119　トレンチ２赤煉瓦基礎検出状況（西より）

写真120　トレンチ２掘削状況（西より）

写真121　トレンチ２南壁土層断面（北より）

４．（大江南）工作物災害復旧工事に伴う立会調査（1825）

＜調査期間＞

2019年２月１日

＜調査面積＞

10.02㎡

＜調査員＞

士野雄貴．

＜調査概要・結果＞

熊本地震により被害を受けた擁壁の改修工事に伴う工事立会である．2016年度に一度補修工事を実施しているが，大江南地区の北西隅にある擁壁12m分は旧擁壁（石垣）上に敷設されたものであったため再改修となった区間である．擁壁外面から1.2m幅を敷地地表下1.3m（敷地外の道路地表下0.6m）までを掘削する計画であることから遺跡へ影響を与える可能性が想定され，工事立会を実施することとなった．擁壁外面が敷地境界となり，工事の影響を与える恐れがあることから，立会に際しては熊本市教育委員会文化振興課より岡田有矢氏の同席を得ている．

12m区間のうち３箇所を確認した．①は1.05×1.2mを道路地表面まで掘削したが，擁壁掘方を確認できなかったため，2.4m先を②として掘削することとした．必要な掘り幅は擁壁外面から0.8mで良いと確認したため，1.2×0.8mを道路地表面まで掘削した．現代埋土内におさまっており，掘削は擁壁掘方内におさまることが確認できた．西から2.3m地点を③として1.3×0.8mを道路地表面まで掘削し，同じく擁壁掘方内におさまることを確認でき，石垣を撤去することにした．

2016年度に改修した基礎下には２段の石積が認められていたが，道路地表下0.3m付近にもう１段，根石があることが判明し，市職員の了承を得て撤去・精査したところ道路地表下0.7mで地山を確認した．遺構・遺物は確認されなかった．②においても同様に根石を確認した．撤去・精査したところ道路地表下0.67mで地山を確認した．遺構・遺物は確認されなかった．この結果を受けて現地で協議し，根石を撤去するだけであれば遺跡へ影響を与える恐れはないことを確認したため，残りの作業については慎重な工事を指示して立会を終了した．

写真122　調査区近景（西より）

写真123　③根石検出状況（北より）

写真124　③根石撤去完了状況（北より）

5．（大江北）自然共生型産業イノベーションセンター新営電気設備工事に伴う立会調査（1826）

＜調査期間＞

2019年２月６日

＜調査面積＞

5.47㎡

＜調査員＞

土野雄貴．

＜調査概要・結果＞

自然共生型産業イノベーションセンター（以下「センター」）新営に伴う付帯工事の一つで，建物北東隅への外灯設置に伴う工事立会である．既設ハンドホールからの電源引込部分①②と，新営される外灯基礎部分③とに分かれる．

①は，センター北東の既設ハンドホールから0.5×3.9mを掘削した．ハンドホール南脇では地表下0.6mで電源ケーブルを確認したが，1.8m南から地表下0.45mで調査区を横断するヒューム管を確認した．以南から地表下0.4mでガス管と電源ケーブルを確認しており，ヒューム管を上越ししたものとみられる．既設配管を避けながらハンドホール南脇で地表下0.8m．②との接続部分で地表下0.6mまで掘削し，配管を敷設することとなった．現代埋土内におさまり遺跡への影響はなかった．

②は0.5×2.8mを掘削した．地表下0.9mまで現代整地層，下位は近代整地層である．ガラス管を２点出土した．1728調査の⑦・⑨で確認した層と類似している．当時は近世包含層としたが，当調査において近代整地層である可能性が高くなった．西端0.2mにセンター基礎の掘方を確認し，外灯を新設する③の掘削範囲はすべてこの掘方内におさまることが確認された．

③を1.2×1.2m，地表下1.5mまで掘削し，掘方埋土内におさまることを確認したところで，残りの作業について慎重な工事を指示して立会を終了した．

写真125　③調査区近景（南西より）

写真126　②重機による掘削作業風景（北より）

写真127　②土層断面（南より）

Ⅱ－5　京町地区　（図７参照）

１．（京町）教育学部附属小学校管理棟新営機械設備工事に伴う立会調査（1802）

＜調査期間＞

2018年５月10・22日

＜調査面積＞

76.70㎡

＜調査員＞

大坪志子・吉留　広．

＜調査概要・結果＞

熊本地震による被害のため取り壊し，新たに建設した管理棟に給水管と排水管を設置する工事に伴う立会調査である．

管理棟の南側では，玄関前から，南東方向にある枡へ排水管を新たに敷設する工事をおこなった．

玄関前は幅0.6m，地表下0.2m，玄関前東端から南東に位置する枡までは，幅0.5m，地表下0.6mで掘削をおこなった．すべて埋土中であり，遺物や遺構の検出はなかった．

写真128　作業風景（西より）

写真129　玄関前掘削状況（西より）

写真130　枡への管路掘削状況（南東より）

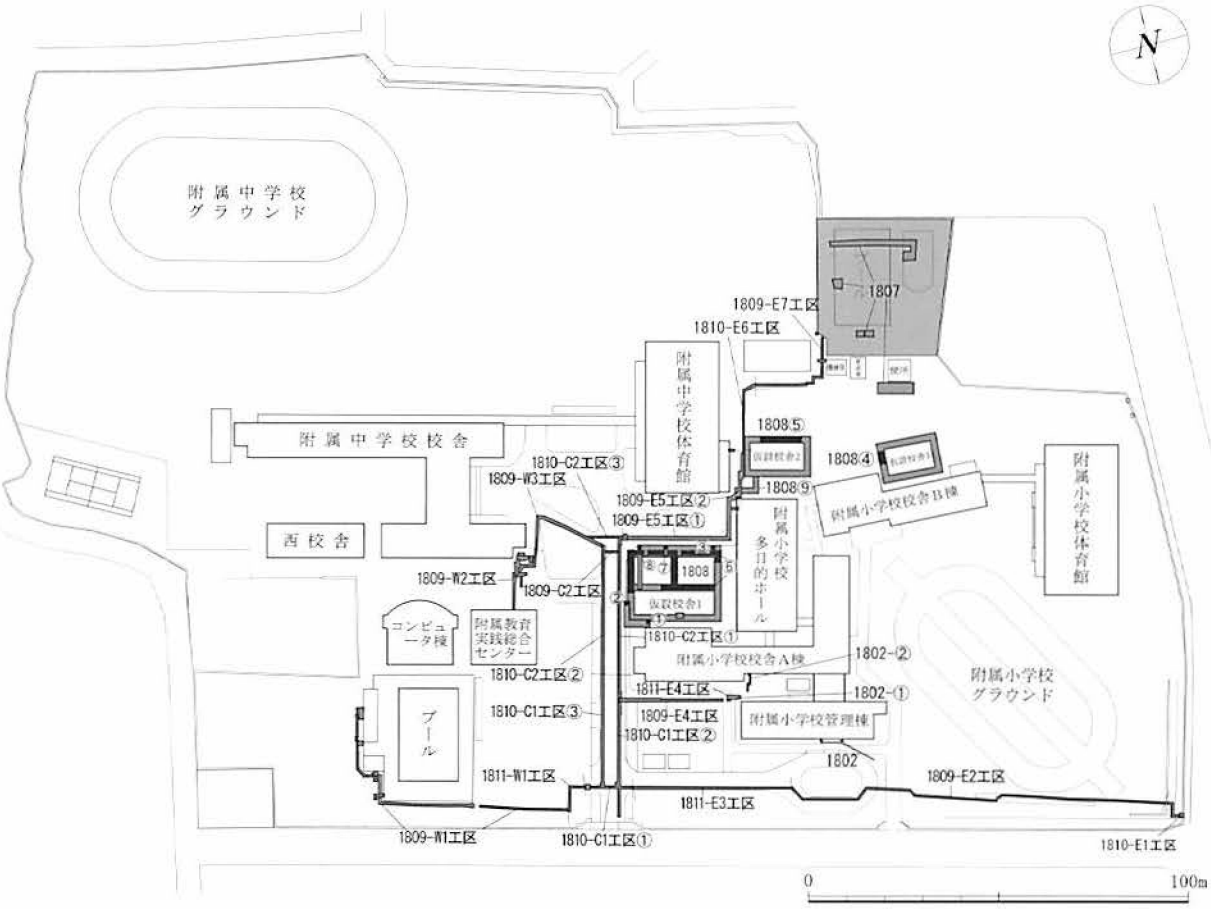
管理棟北側では，管理棟の北西端から西側へ掘削するルートと北側に掘削するルートの2箇所について立会調査をおこなった．

西側へ掘削するルートでは，管理棟の北西端から北へ0.5mの位置を基点として，北側に0.9m西側に3.6mの範囲を地表下0.6m掘削した．途中範囲内の西側中央付近からフューム管が地表下0.4mで，その北側に給水管が地表下0.3mで，さらに北側からガス管が地表下0.4mの所で検出したが工事には支障なかった．掘削はすべて管の掘方埋土内におさまり包含層への影響はなかった．

写真131　管理棟西側作業風景（西より）

写真132　管理棟西側掘削状況（西より）

図7　京町地区における調査地点配置図（1/2000）



北側に掘削するルートは，給水管を露出させる工事のため，埋設が想定される給水管のルートを掘削していった．管理棟の北西端から東側に2.7m，北側に7.2mの位置を基点に，西側に0.3m南側に2mの地点で汚水桝にあたり，これを西側に１m迂回してさらに南側に1．65mを地表下0.35m掘削した．すべて給水管の掘方埋土内におさまり包含層への影響はなかった．どちらの箇所も遺構・遺物は検出されなかった．

写真133　管理棟北側掘削状況（北東より）

2．（京町）教育学部附属小学校プール災害復旧工事に伴う立会調査（1807）

＜調査期間＞

2018年７月９・10日

＜調査面積＞

1360㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎・土野雄貴．

＜調査概要・結果＞

京町附属小・中学校の北東に位置するプールの災害復旧に係る工事立会を実施した．本調査地点に敷設されたプールおよびプールサイドは，西側の運動場や南側の地表面に対し，北側にある光永寺敷地に向けてややレベルが高く，微高地となっている．

本工事は埋蔵文化財保護法第93条に対し，熊本市教育委員会文化振興課から慎重工事での指導が下り，施工を開始した．2017年12月に工事業者が重機掘削の際，プールサイド床面から下位に20cm程で赤煉瓦の構造物を発見した．工事業者から熊本大学施設管理課に連絡があり，2018年７月４日，埋蔵文化財調査センターへ赤煉瓦構造物に関する調査等取扱いの相談があったため，現地で現

状確認をおこなった．赤煉瓦構造物は施工掘削範囲の南西側，2.5m×1.8mの範囲に確認でき，より東側へ続くと見込まれた．当初は建物基礎の一部と考えていたが，根積みがなく，壁が垂直に立ち上がることから地下倉庫のような構造物である可能性が考えられた．これまで大学構内遺跡で検出した事例がなく，簡易な記録保存の必要性があった．

また，本工事に先立ち，熊本市教育委員会文化振興課によって確認調査が実施されている．調査では微高地であるプールサイドの南側に東西２カ所，一段下がった南側隣接地に１カ所，計３カ所に試掘トレンチが設けられた．プールサイドの２つのトレンチでは1.8～2.5mの深さでも地山が確認できず，プール南側隣接地のトレンチにて，地表下約2.5mで黄褐色の地山が検出された．古老の話からプール工事以前は調査地周囲が大きく窪んでいたとの話もあり，過去に黄褐色土層まで削平された後，プール工事の際に盛り土をしたと判断された．当センターが現地に訪れた際には，調査地はすでに旧プールを取り壊した状態であり，その下位からは黄褐色土が確認できた．つまり，調査地の南側では地表下深くまで現代盛土が堆積しているが，調査地北側では比較的浅い深度で黄褐色土が検出できる可能性が生じたのである．北側の工事ではこの黄褐色の地山の一部を掘削する予定であった．京町地区からは過去の調査でも弥生時代や古墳時代の以降が検出されており，当センターでは黄褐色土層上面で当該時期の遺構の有無を確認する必要があると判断した．煉瓦構造物の取り扱いと遺構の有無の確認を実施するため，熊本市教育委員会文化振興課と協議したところ，簡易的な記録と補完的試掘調査をおこなうこととなった．

遺構の有無の確認のため，調査地北側において重機掘削を実施した．調査地北西隅から南に7.5m，東に３mの位置に東方向へ東西23m，幅1.5mの確認トレンチ（1トレンチ）を設け，東端ではさらに南に５mトレンチを延長した．また，調査地北西隅から南に17m，東に約４mの地点にも2.5×2.5mの確認トレンチ（２トレンチ）を設けた．結果として，プールサイドに設定した任意の座標点の高さをグラウンドレベルとした場合，１トレンチでは東側で深さ65cm，西側で深さ134cmにおいて黄褐色土を検出した．また，２トレンチでは深さ166cmで黄褐色土を検出することができた．熊本市教育委員会文化振興課による確認調査の結果と統合すると，本調査地点周辺は南側では地山が深く沈み込んでいる，あるいは削られているのに対し，北東側では比較的浅い深さで黄褐色土が検出され，地山が残存していることが分かり，自然地形としての微高地の様相を呈していると考えられる．しかし，いずれのトレンチでも黄褐色土層上面での遺構は検出されず，現代盛土からのガラスや陶磁器，瓦などの遺物が出土したのみである．

赤煉瓦構造物については，重機で赤煉瓦構造物の外側の現代盛土と内部の廃土を取り上げた後，人力で全体の清掃を実施した．赤煉瓦構造物は東西4.6m，南北1.75mの規格で，中央には普通煉瓦２列分，厚さ20cm程の壁が設けられており，東西の部屋を区画していた．内面をみると，小口列と長手列を交互に積み重ねるイギリス積で積まれており，最下部は内面四方に５cm程張り出すようモルタル状の基礎が設置されていた．残存状況は西端が最も残りがよく22段分，南側では７段分が残り，東端には最下段から４段分の煉瓦の上に乗る形で小口高20cm，小口幅35cm，長手幅180cmのコンクリート板が据えられていた．このコンクリート板の下部には空間があり，その東側奥にも同サイズのコンクリート板が土中に埋設されていることが確認できた．

構造物内部は排土を取り除くと，ややしまりが弱い褐灰色の砂が堆積しており，鉄釘や機種不明の鉄小片が少量出土した．その下位にはややしまった黄褐色土と灰褐色土が斑に混じった床土が検出され，その上面レベルが煉瓦直下のモルタル基礎の上面レベルと対応していた．床土を一部10cm程掘り下げたが，出土遺物はなかった．

工事業者によると赤煉瓦構造物の東側は本来煉瓦が残っており，全体形が箱型を呈し，その上を覆うようにコンクリート板が据えられていたとのことだった．構造物のサイズや内部に鉄片が残存している点からも，倉庫等として利用されていた可能性が高いと考えられる．赤煉瓦の平部分には縮緬状の調整が認められ，機械成形であることが分かる．現地で取り上げられた普通煉瓦の法量を20個計測したところ，小口幅9.8～11.0cm，長手幅21.6～22.8cm，高さ5.8～6.2cmであった．出土遺物として本赤煉瓦数点と鉄製品を取り上げている．

現熊本大学教育学部附属小・中学校の敷地は，戦前まで熊本県師範学校の校地として利用されていたが，1949年になって熊本大学教育学部が発足し，その敷地を引き継いだ．発足当初の本調査地点には音楽教室が建てられていたようであるが，それ以前の様子は不明である．あるいは熊本県師範学校に関連する構造物であった可能性も考えられる．

写真134　調査地点遠景（南より）

写真135　１トレンチの地山検出状況（西より）

写真136　２トレンチの地山検出状況（南西より）

写真137　赤煉瓦構造物の掘削作業風景（北東より）

写真138　赤煉瓦構造物の検出状況（北東より）

写真139　赤煉瓦構造物東側検出状況（北より）

写真140　赤煉瓦構造物西側検出状況（北より）

写真141　赤煉瓦構造物近景（東より）

3．（京町）教育学部附属小学校仮設校舎取設工事（取り壊し）に伴う立会調査（1808）

＜調査期間＞

2018年７月13，23，25・26日

＜調査面積＞

2.1㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

熊本地震により，2016年に建設した3棟の仮設校舎の基礎およびこれらに敷設した給排水管やガス管の撤去工事に伴い，立会調査を実施した．

まず，配管関係の撤去作業をおこなった．

仮設校舎１の南側（①地点）では，給水管を地中から地上へ立ち上げ建物に接続した箇所を掘削した．仮設校舎の基礎沿いに0.7×0.9mの範囲を地表下0.4mまで掘削した．切断作業はこの範囲内で可能であることを確認した．埋土内であり埋蔵文化財への影響はないと判断した．

仮設校舎１南西部（②地点）では，ガス管を分岐して立ち上げた箇所を掘削した．2016年に切断・分岐したが，分岐した管を撤去し，切断した管を再接続する作業が今後おこなわれる．0.8×1.37mの範囲を地表下1.0mまで掘削し，上記の作業をおこなえることを確認した．基本的に埋土内であり埋蔵文化財への影響はないと判断した．一部に古代の遺物包含層を確認したため，その周辺での作業には，十分注意を払うよう指示した．

写真142　①地点掘削状況（南より）

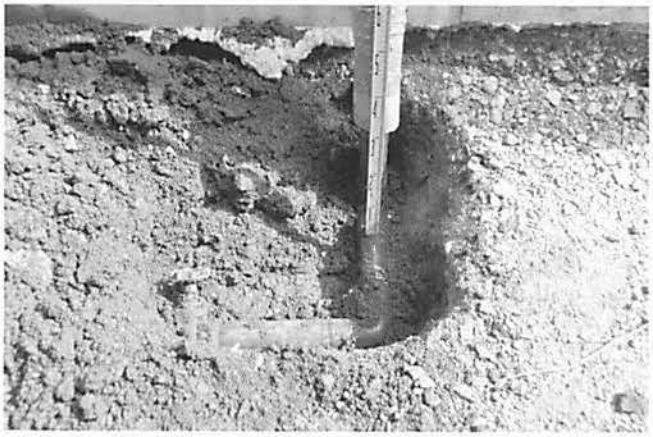


写真143　②地点作業風景（南より）

写真144　②地点掘削状況（西より）

仮設校舎１北西部（③地点）でも，②と同様の工事を予定している．ガス管を地上に立ち上げた箇所を0.4×0.9m，地表下0.4mまで掘削したが埋土内で，慎重に進めるように指示した．

写真145　③地点作業風景（北西より）

写真146　③地点掘削状況（北より）

仮設校舎の基礎撤去では，それぞれ一部で基礎の状態（深さ等）と作業の確認をおこなった．

仮設校舎３では，一周する基礎のうち西側（④地点）において，基礎を重機でめくるように撤去することと，埋蔵文化財への影響はないことを確認した．

仮設校舎２は，北側（⑤地点）において，同様の作業のと埋蔵文化財への影響の確認をおこなった．

仮設校舎１では南側を除く3方（⑥地点）と，中央の梁について同様の確認をおこなった．いずれも，埋蔵文化財への影響はないと判断した．南側については，西側から断面を観察できるため，同様の方法であれば，問題はないことを確認した．

写真147　④地点基礎撤去作業風景（西より）

写真148　⑤地点基礎撤去作業風景（東より）

写真149　⑥地点基礎撤去作業風景（北西より）

写真150　⑥地点北側基礎撤去作業風景（東より）

写真151　⑥地点中央基礎撤去後状況（北より）

写真152　⑥地点西側基礎撤去後状況（北より）

仮設校舎１の北側に設置した配管については，最も深く掘削した沈殿槽（⑦）地点の撤去を確認した．

周囲を浅く掘削し，重機で引き上げたため，埋蔵文化財への影響はなかった．これらに接続する排水管についても，同地点で深さを確認し，重機よって慎重に引き上げて撤去するよう指示した．

写真153　⑦地点仮設沈殿槽撤去作業（北より）

仮設校舎１の建物下に配置した排水管（⑧地点）は撤去せずにそのまま現地に残し，排水桝に繋いだ部分のみ切断し，封鎖するという工事計画が，担当者から現地で示された．このため，桝付近の掘削をおこなった．掘削は，桝設置時の掘方と，接続時の堀から内におさまり，切断作業に必要な空間を確保できることを確認した．

仮設校舎２と多目的ホール管間にあった配管（⑨地点）の撤去も，重機で引き上げ，掘方内で作業をおこなうことを確認した．

写真154　⑧地点撤去排水管掘削作業風景（北より）

写真155　⑧地点撤去排水管検出状況（北より）

写真156　⑨地点撤去排水管検出作業風景（北より）

写真157　⑨地点排水管撤去作業風景（東より）

写真158　⑨地点排水管撤去作業風景（西より）

4．（京町）ライフライン災害復旧（給水設備等取替）工事に伴う立会調査（1809）

＜調査期間＞

2018年７月23・25日，８月１・６・７・22・24日，９月18日，10月17・19・22～26日，11月１・２・５・７・９・13～16・19・20日

＜調査面積＞

187.33㎡

＜調査員＞

土野雄貴．

＜調査概要・結果＞

熊本地震により被害を受けた京町地区の給水管・ガス管の交換に伴う工事立会である．構内の動線確保のため後述する1810・1811調査と同時に実施された．工事による開口部は最小限にとどめてほしいという学校側からの要望を考慮し，同日中に敷設・埋め戻しが可能な単位で工事を進めるという方針で臨み，同日中に完了できなかった箇所では鋼板による養生を実施し，開口部が生じないよう留意した．

Ｅ２工区は，後述する1810Ｅ１工区を起点とし，教育学部附属小学校（以下「小学校」）グラウンド南側を69×0.6m，小学校構内道路に隣接する区間のみ地表下0.8m，それ以外は地表下0.5mを掘削した．小学校構内道路東側から地表下0.56mで近世遺物包含層を確認したほか，小学校管理棟南のロータリー南側付近から地表下0.32～0.4mで近世整地層を部分的に確認したが，大半は現代埋土内におさまり遺構・遺物は確認されなかった．

Ｅ４工区は，1811Ｅ４工区で確認された既設配管と教育学部附属中学校（以下「中学校」）構内道路下に新設される配管とを繋ぐ区間である．西側は10.96×1.0m，東側は17.83×0.7mをそれぞれ地表下0.5m掘削した．西側から地表下0.2mで現代建物基礎を確認した．現代埋土内におさまり遺構・遺物は確認されなかった．

Ｅ５工区は，中学校体育館周辺の構内道路下が中心である．1446・1725調査区と一部重なる．給食センター横までの①は１m幅を地表下0.8m，以北は0.8m幅を地表下0.5m掘削した．大半は現代掘方に切られており遺存状況は良好でなかったが，地表下0.19～0.35mで遺物出土状況・土坑・ピット・凝灰岩製枠状構造物などを確認した．中学校体育館東側の②は遺存状況が良好でなく，1725－１区東側付近から地表下0.26mで近世整地層を確認したが，遺構・遺物は確認されなかった．中学校体育館東にあった旧燃料槽横は7.5×0.3mを地表下0.4m掘削したが，燃料槽掘方埋土にとどまり遺構・遺物は確認されなかった．

Ｅ７工区は，1810Ｅ６工区北から小学校プール横までの区間である．旧ボイラー室南側の10.94×0.7m，旧ボイラー室東から小学校プール西側にかけての10.5×0.5mをそれぞれ地表下0.5m掘削したが，現代埋土内におさまり遺構・遺物は確認されなかった．

Ｃ２工区は，1810Ｃ２工区北側で東西の調査区を繋ぐ部分である．3.6×0.6mを地表下0.8m掘削した．地表下0.35m前後で竪穴建物跡の切り合いと不明遺構の一部を確認している．

Ｗ１工区は，後述する1811Ｃ１工区端を基点とし，中学校プール西側へ至る区間である．おおむね0.5m幅を地表下0.5m掘削した．現代埋土内におさまり遺構・遺物は確認されなかった．

Ｗ２工区は，中学校校舎と附属教育実践総合センターとを繋ぐ給水管・ガス管の改修に伴う掘削である．埋設状況確認のための試掘坑と重なり合い，また既設管路を探しながらの掘削であったことから幅はまちまちであったが，地表下0.8mまでを掘削した．附属教育実践総合センターの北４m付近から地表下0.44mで近世整地層をわずかに確認したが，ほかはすべて現代埋土内におさまった．

写真159　Ｅ５工区①調査区近景（南西より）

写真160　Ｅ５工区①遺物出土状況（南より）

写真161　Ｅ５工区①枠状石造物検出状況（南より）

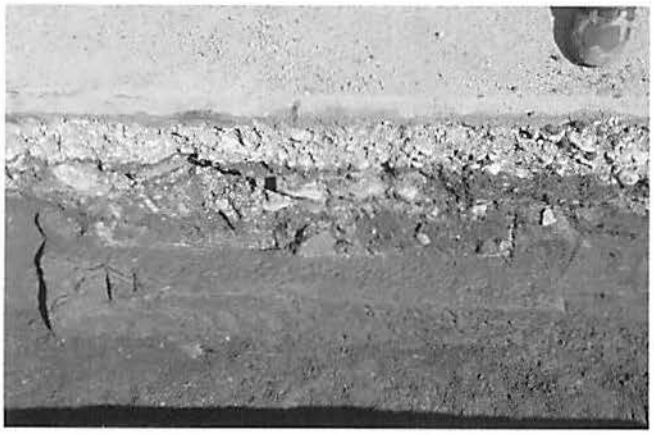


写真162　Ｃ２工区②重機による掘削作業風景（西より）

写真163　Ｃ２工区②竪穴建物内遺物出土状況（東より）

５．（京町）ライフライン災害復旧（給水設備等敷設）Ⅰ期工事に伴う立会調査（1810）

＜調査期間＞

2018年７月23日，８月９・10・16・17・21～23・27～31日，９月３・５～７・10～14・18・19・25～27日，10月１～３・５・９～12・15～18・22～24日，11月７・８・30日

＜調査面積＞

150.99㎡

＜調査員＞

士野雄貴．

＜調査概要・結果＞

熊本地震により被害を受けた京町地区の給水設備およびガス管の新規敷設に伴う工事立会である．前述の通り1809・1811調査と同時に実施された．

Ｅ１工区は，一般県道303号四方寄熊本線（以下「県道」）下を供給元とする給水管新設工事に伴う掘削である．調査区周辺は昭和50年代まで教育学部附属小学校（以下「小学校」）出入口だったことから相当程度の削平を想定していたが，小学校運動場東擁壁撤去後1.05×1.08mを掘削したところ，県道脇の歩道舗装面とほぼ同じ高さの構内地表下1.9mでごく僅かに地山を確認したほかはすべて現代掘方に占められていた．構内地表下2.3mで既設給水管を確認し，給水管掘方内を構内地表下2.5mまで掘削したが遺構・遺物は確認されなかった．以上の成果により，1809Ｅ２区東端までの区間は慎重な工事を指示した．

Ｅ６工区は，旧燃料槽からボイラー室に至る6.95×0.5mを地表下0.7mまで掘削した．南側2.2mまで地表下0.46mで地山を確認し，白粘土を埋土とする掘方を確認したが，以北は現代埋土内におさまり遺構・遺物は確認されなかった．

Ｃ１工区は教育学部附属中学校（以下「中学校」）構内道路南側である．Ｃ１工区①は，構内道路を横断するように12.78×0.6mを地表下0.8m掘削した．ガス管の供給元は中学校正門外の市道にあるため，正門東側を10.99×0.8m南に分岐して掘削した．西端は，中学校プールへ給水するため，緑地部分の東端1.75×1.6mを緑地からの地表下2.0m掘削し，地表下1.72mで近世埋土を確認した．中学校正門周辺は地表下0.3～0.6mで地山を確認し，中学校構内道路のほぼ中央から西側にかけて近世掘方を確認した．

Ｃ１工区①から北へ向かう中学校構内道路両端，中学校校門から小学校屋外遊技場横にかけての掘削がＣ１工区②である．中学校構内道路東側は給水管とガス管を併

設するため１ｍ幅，西側は給水管のみ敷設するため0.8ｍ幅をそれぞれ地表下0.8m掘削した．地表下0.25～0.35ｍで遺物包含層を確認し，竪穴建物・栗石・桝状石積・溝・土坑など多数の遺構・遺物を確認した．

小学校校舎Ａ棟西から北側がＣ２工区である．Ｃ１工区同様，東側が１ｍ幅，西側は0.8m幅，いずれも地表下0.8mの掘削である．現代掘方に切られるなど遺存状況は良好でなかったが，地表下0.25～0.35mで遺物包含層を確認し，竪穴建物・溝・土坑・遺物出土状況など多数の遺構・遺物を確認した．

Ｗ３工区は，1809Ｗ２工区から中学校校舎東入口前を経て中学校構内道路に至る部分の掘削である．Ｗ２工区から中学校校舎東入口までは，0.7m幅を地表下0.5m掘削したが，現代埋土内におさまり遺跡は確認されなかった．中学校校舎東入口から中学校構内道路までの区間は，0.8m幅を地表下0.8m掘削した．中学校校舎に近いところでは地表下0.62mで現代建物基礎を確認したが，東側では地表下0.45m付近から遺物包含層を確認し，竪穴建物・土坑・焼土などの遺構と遺物を確認した．

写真164　Ｃ１工区調査区近景（南より）

写真165　Ｃ１工区②桝状石積検出状況（南より）

写真166　Ｃ２工区①竪穴建物内遺物出土状況（北西より）

写真167　Ｃ２工区②遺物出土状況（西より）

写真168　Ｗ３工区①焼土検出状況（北より）

６．（京町）ライフライン災害復旧（給水設備等敷設）Ⅱ期工事に伴う立会調査（1811）

＜調査期間＞

2018年７月23日，８月６～９日，11月13日

＜調査面積＞

676.11㎡

＜調査員＞

土野雄貴．

＜調査概要・結果＞

熊本地震により被害を受けた京町地区の給水・ガス設備の新規敷設に伴う工事立会である．前述の通り，1809・1810調査と同時に実施された．

Ｅ４工区は，1802調査後に更新された配管の敷設状況確認のため，教育学部附属小学校（以下「小学校」）校舎Ａ棟南の1.54×1.2mを地表下0.8m掘削した．現代埋土内におさまり遺構・遺物は確認されなかった．

Ｅ３工区は，小学校管理棟南のロータリーから教育学部附属中学校（以下「中学校」）構内道路下の新設配管までを繋ぐ工事である．41.79×0.6mを地表下0.5m掘削し，小学校屋外遊技場の南付近から地表下0.32mで溝・竪穴建物跡・ピットなどを確認した．

Ｃ１工区は，中学校プールへ給水するための工事である．1810Ｃ１工区西端の深掘り箇所を起点に，緑地内の10.45×0.7mを地表下0.5m掘削したが，現代埋土内におさまり遺構・遺物は確認されなかった．

なお1809・1810調査を含めた中学校構内道路の舗装やり替えは当調査に含まれていたが，路床を掘削しないことを確認したため慎重な工事を指示した．

写真169　Ｅ３工区調査区近景（東より）

写真170　Ｅ３工区溝完掘状況（北より）

Ⅱ－６　新南部地区　（図８参照）

１．（新南部）薬学部管理棟新営その他工事に伴う立会調査（1822）

＜調査期間＞

2018年12月12・14・19・25日，2019年１月16・23～25・28日，２月４日

＜調査面積＞

82.97㎡

＜調査員＞

土野雄貴

＜調査概要・結果＞

新南部地区における薬学部管理棟の新営に伴う工事立会である．2017年度に撤去された旧加工舎跡と一部重なっている．新営に先立ち，教育学部所管の収納舎・農夫舎・畜舎・堆肥舎・温室および温室機械室の解体と，九電所有物件を除く電柱および支線を撤去することとなり，遺跡への影響が予想されたため立会を実施することとなった．

地上部分の撤去作業中に温室機械室横の給水管が破損し，温室機械室西側の緊急工事が必要となったことから，既設給水管への止水栓設置工事立会を先行して実施した．①は温室機械室の西2.0m地点を0.25×0.5m掘削した．地表下0.3mで遺物包含層を確認し，給水管および掘方を確認した．②は0.35×0.67mを掘削した．地表下0.3mで遺物包含層を確認し，給水管および掘方を確認した．③は0.9×0.7mを掘削した．地表下0.3mで遺物包含層を確認し，給水管掘方を確認した．給水管は掘方内から地表下0.4mで確認し，地表下0.45mで掘方底部に至る．ここで止水栓を設置することとなり，作業空間確保のため調査区東端を0.3×0.3m，地表下0.6m掘削したが遺物は出土しなかった．

収納舎は基礎周りの外側を0.8～1.0m幅で掘削した．基礎東側および北側では地表下0.36m，西側では地表下0.2mで基礎下の捨てコンを確認した．いずれも現代埋土内におさまる．現地での協議の結果，重機を用いて引き上げれば掘削を伴わず撤去できることを確認したため，南側は掘削せず残りの作業については慎重な工事を指示した．この結果を受け，他の建物についてはまず数か所を掘削して埋設状況を確認してみることとした．

農夫舎周り①は0.8×1.0mを掘削した．地表下0.1mで0.2m幅の基礎下部を確認した．農夫舎周り②は0.8×1.2mを掘削した．地表下0.2mで0.2m幅の基礎下部を確認した．農夫舎周り③は0.8×1.0mを掘削した．地表下0.2

mで0.2m幅の基礎下部を確認した．いずれも現代埋土内におさまる．以上の結果から，重機を用いて引き上げれば掘削なく撤去できることを確認し，残りの作業については慎重に工事するよう指示した．

畜舎周り①は0.8×0.95mを掘削した．地表下0.2mで0.05m幅の基礎下部を確認した．現代埋土内におさまる．畜舎周り②は0.8×1.1mを掘削した．地表下0.2mで包含層を確認し，0.2m幅の基礎掘方を確認した．掘方内から地表下0.3mで捨てコンを確認した．畜舎周り③は0.8×1.0mを掘削した．地表下0.08mで5㎝幅の基礎下部を確認し，地表下0.3mで捨てコンを確認した．現代埋土内におさまる．現地での協議の結果，捨てコンは残置して良いということになり，重機を用いて引き上げれば掘削なく撤去できることを確認し，残りの作業については慎重に工事するよう指示した．

堆肥舎周りは0.6×0.56mを掘削した．地表下0.42mで地山を確認し，0.35m幅の基礎掘方および捨てコンを確認した．現地での協議の結果，東側の地下ピットは捨てコンと同レベルで破砕，下位は残置し，捨てコンは残置して良いということになり，重機を用いて引き上げれば掘削なく撤去できることを確認し，残りの作業については慎重に工事するよう指示した．

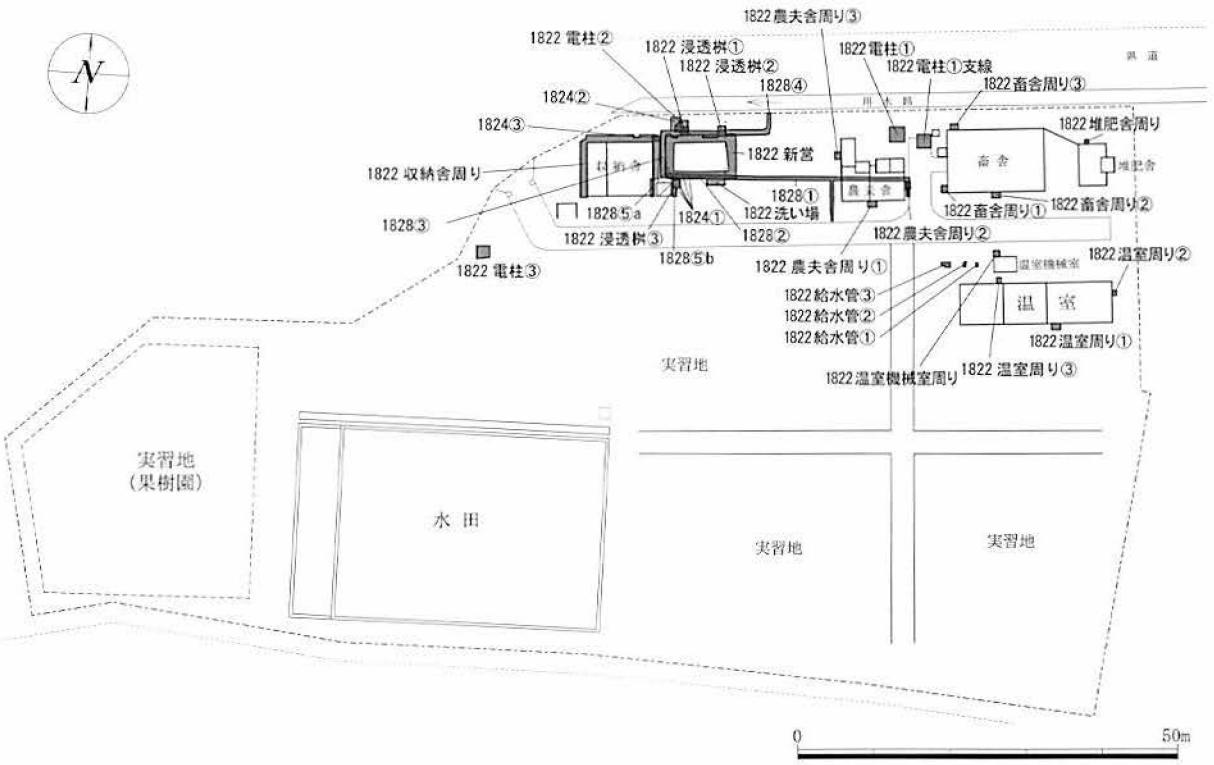
温室周り①は0.8×1.2mを掘削した．地表下0.2mで遺物包含層を確認し，0.15m幅の基礎掘方を確認した．掘方内からは地表下0.37mで捨てコンを確認した．温室周り②は0.6×0.6mを掘削した．地表下0.22mで地山を確認し，0.3m幅の基礎掘方を確認した．掘方内から地表下0.42mで捨てコンを確認した．温室周り③は0.8×0.6mを掘削した．地表下0.27mで暗褐色土を確認した．地表下0.3mから土器片を出土し，遺構埋土である可能性が生じた．基礎掘方は0.2m幅を確認し，掘方埋土内から地表下0.42mで捨てコンを確認した．現地での協議の結果，捨てコンは残置して良いということになり，重機を用いて掘削を伴わず引き上げ撤去ができることを確認し，残りの作業については慎重に工事するよう指示した．

温室機械室周りは0.8×0.8mを掘削した．地表下0.3mで包含層を確認し，0.4m幅の掘方を確認したが，重機により基礎の引き上げができたため，残りの作業については慎重に工事するよう指示した．

農夫舎解体後，農夫舎東南隅にある既設止水栓の埋設状況を確認するため0.3×0.3mを掘削し，地表下0.18mで給水管を確認した．地表下0.2mまで掘削したが，現代埋土内におさまり遺構・遺物は確認されなかった．

電柱①は2.0×2.0mを掘削した．地表下0.3mで包含層を確認し，根枷および掘方・既設配管および掘方を確認した．掘方内を地表下0.5mまで掘削し，結索金具を露出・分離した後，電柱を引き上げ撤去した．遺構・遺物は確認されなかった．

図８　新南部地区における調査地点配置図（1/1000）



電柱①支線は1.8×1.8mを掘削した．地表下0.2mで包含層を確認し，支線周囲に0.5×0.7mの掘方を確認した．掘方内を地表下1.1mまで掘削したが，まだ下に続くため地表下0.5mで鋼索を切断，以下を残置した．遺構・遺物は確認されなかった．

電柱②は1.3×1.8mを掘削した．地表下0.2mで根枷および掘方を確認し，掘方内を地表下0.36mまで掘削し，結索金具を露出・分離した後，電柱を引き上げ撤去した．現代埋土内におさまり遺跡への影響はなかった．

電柱③は1.8×1.7mを掘削した．根枷は斜めに埋置してあり，上端は地表に露出しており，下端は地表下0.6mで確認した．地表下0.15mで根枷の中心と電柱とがモルタル接着されており，そのまま引き上げ撤去した．現代埋土内におさまり遺跡への影響はなかった．

新営管理棟建設箇所は，6.0×9.6mをロの字状，長辺1.0m幅，短辺1.3m幅，地表下0.65mまでを掘削した．北側では地表下0.22～0.37mで近世包含層，地表下0.37～0.47mで地山を確認し，溝・ピット・白粘土分布など若干の遺構を確認した．東側では地表下0.3mで古代包含層，地表下0.52mで地山を確認し，ピットを確認した．南側では，東側１mほどまでは地表下0.3mで古代包含層，地表下0.5mで地山を確認したが，以西では地表下0.56～0.65mまで現代埋土，下位は地山であった．ピット数基を確認した．西側では0.57～0.6mで地山を確認し，ピットを確認した．

新営管理棟建設箇所の掘削後，建物に付随する地下ピット・洗い場・浸透桝の設置予定箇所のうち，掘削の浅い地下ピット部分は慎重に工事することとし，洗い場と浸透桝の掘削について立会を実施した．

洗い場は0.85×2.4mを地表下0.56m掘削したが，現代埋土内におさまり遺構・遺物は確認されなかった．

浸透桝①は1.0×1.0mを掘削した．地表下0.65mで地山を確認し，地表下0.9mまで掘削したが遺構・遺物は確認されなかった．

浸透桝②は1.1×1.0mを掘削した．地表下0.57mで地山を確認し，地表下0.9mまで掘削したが遺構・遺物は確認されなかった．

浸透桝③は1.0×1.0mを掘削した．地表下0.9mまで掘削したが，現代埋土内におさまり遺構・遺物は確認されなかった．

写真171　調査区近景（西より）

写真172　収納舎東壁際掘削完了状況（北より）

写真173　温室壁際③遺物出土状況（西より）

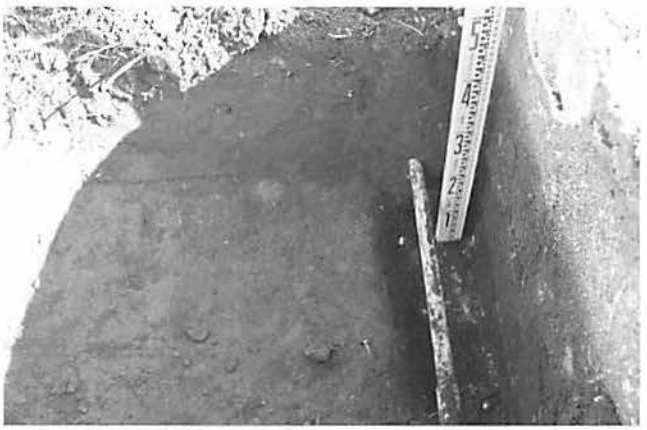


写真174　新営管理棟設置箇所 M1～ M4検出状況（東より）

写真175　新営管理棟設置箇所 M1完掘・M2検出状況（北より）

写真176　②③調査区近景（南より）

写真177　②鉄管検出状況（西より）

2．（新南部）薬学部管理棟新営電気設備工事に伴う立会調査（1824）

＜調査期間＞

2019年１月28日

＜調査面積＞

2.93㎡

＜調査員＞

土野雄貴．

＜調査概要・結果＞

新南部地区に新営される薬学部管理棟に付随する，電気設備工事に伴う工事立会である．接地棒打込み箇所を①，電柱および支線敷設箇所をそれぞれ②③とした．

①は当初，管理棟西側に1.0×5.0m，地表下0.75mを掘削する予定となっていたが，現地での協議の結果，新営管理棟の基礎掘方内に打込むよう変更された．このため，掘削は基礎掘方内南西隅の0.2×0.2m・深さ0.2mを５箇所掘るだけで済んだ．南辺の３箇所は地山，西辺の２箇所は現代掘方内を掘削している．遺物は出土していない．

②の電柱部分は，基礎掘方の北を1.75×1.52mの範囲で掘削した．西側の一部は1822電柱②掘方と重なる．現代埋土中の地表下0.45mで鉄管を確認したためその深さで根枷を据えることとなり，電柱本体部分はオーガによる機械掘削であったため，掘削埋土の確認により遺跡への影響の有無を判断することとした．0.2m下位より褐色粘質土，0.7m下位より黄褐色強粘質土を確認した．1.7m下位まで掘削したが遺物は出土せず，遺跡への影響はないと判断した．

③は0.7×1.2m掘削した．1822旧収納舎基礎周り掘方と重なる．地表下0.55mで近世包含層，地表下0.65mで地山を確認した．遺構は確認されなかった．碍子とともに土師器が数点出土している．

3．（新南部）薬学部管理棟新営機械設備工事に伴う立会調査（1828）

＜調査期間＞

2018年２月20・21日

＜調査面積＞

31.99㎡

＜調査員＞

土野雄貴．

＜調査概要・結果＞

1822地点調査後に新設された薬学部管理棟への給排水配管設置に伴う工事立会である．旧農夫舎南東隅にあった止水栓と，新営建物の南に新設される洗い場へ給水管を接続する①，新営洗い場から既設洗い場までの排水管を敷設する②，既設洗い場からの排水管を敷設する③④，既設洗い場の配管埋設状況を確認する⑤に分かれる．

1822地点調査時に確認した旧農夫舎南東脇の止水栓を起点とする①は，0.5×1.9mを北へ掘削した後，西へ折れて0.5×24m，途中10m地点で5.3m南へ分岐しつつ地表下0.4m掘削した．遺物包含層を確認したのは起点付近から地表下0.3mで，分岐部分の南半分から地表下0.4

mで，西端から地表下0.3mでの３箇所にとどまり，大半は現代埋土内におさまった．

②は，新設洗い場から既設洗い場までの5.4m区間だが，すべて新営薬学部管理棟の基礎掘方内である．

③は，新営建物の西側を通る③ａ，1822調査地点の浸透桝①・②を繋ぐ③ｂとに分かれる．③ａは1822調査地点の新営建物掘方と旧収納舎基礎周り掘方の間を0.5×8.0m，③ｂは0.5×4.1mをそれぞれ地表下0.5m掘削したが，いずれも現代埋土内におさまった．

④は，1822浸透桝②と一般県道145号瀬田熊本線に接する既設汚水桝とを繋ぐ掘削である．新営建物と平行する④ａは，0.7×5.5mを地表下0.6m掘削した．大半が旧加工舎跡と重なり遺存状況は良好でなかったが，西側2.5mから地表下0.38mで近世埋土，地表下0.46～0.6mで地山を確認した．東側からは地表下0.44mで地山を確認した．④ａ東端から汚水桝までの④ｂは，0.5×2.5mを地表下0.7～0.8m掘削した．地表下0.54mで地山を確認し，中央付近から溝とみられる遺構を確認した．

⑤は２箇所を掘削した．⑤ａは既設洗い場の西を0.5×2.3m掘削したが，地表下0.52mまで旧収納舎基礎下の栗石が続いており確認できなかったため，東側の1822調査地点の浸透桝③南脇を0.5×1.2m掘削し，地表下0.18mで給水管を確認した（⑤ｂ）．現代埋土内におさまり遺跡への影響はない．

写真178　調査区近景（東より）

写真179　①ａ起点付近土層断面（東より）

写真180　④ｂ土層断面接写（東より）

Ⅱ－7　渡鹿地区　（図9参照）

1．（渡鹿）北側道路後退に伴う擁壁改修工事に伴う立会調査（1801）

＜調査期間＞

2018年4月5日，2019年3月12～15日

＜調査面積＞

39.51㎡

＜調査員＞

土野雄貴．

＜調査概要・結果＞

渡鹿グラウンドに北接する，市道の拡幅に際し，支障となる樹木および擁壁の撤去に伴う工事立会である．西側を①，東側を②とした．

①は樹木南側を1.9×7.25m掘削した．調査区東端から地表下0.58mで近世包含層を確認したが，大半は地表下0.7mで確認した近代硬化面と，地表下1.0mで確認した近世硬化面とに占められていた．近代硬化面の遺存状況は不良だったが近世硬化面は良好に遺存しており，遺構保護のためそれ以上の掘削を避けることにした．樹木の両側1.5×1.0mをそれぞれ地表下1.0mまで掘削し，撤去を試みたところ，作業の過程で擁壁に接する付近，2.0×1.3m，深さ0.53mの半円形を呈する抜取り痕が生じた．擁壁の手前0.3mは掘方埋土であったが，抜取り痕の底部東側に近世硬化面を認めたほか，西壁において地表下1.1mで古代遺物包含層，地表下1.4mで暗褐色粘質土を確認した．最初に確認した硬化面と，抜取り痕底部で確認した硬化面とには約0.5mの高低差があり，硬化面は複数枚存在している可能性がある．市道沿いの擁壁は重機を用いて手前から撤去を試み，掘削なく撤去できた．

②は4.6×4.8mを掘削した．調査区南東隅で汚水管掘方，西側で現代掘方と重なり，現擁壁の南0.7mから地表下0.2mで近代側溝および硬化面が広がる．近代側溝の北側からは地表下0.39mで近世包含層を確認した．地表下0.52m付近で確認した暗褐色粘質土は，①の時点では地山とみなしていたが，地表下0.72m付近で縄文土器片を伴う集石を検出し，縄文時代の遺物包含層だと確認した．地表下1.0mで確認した黒褐色強粘質土はいわゆるニガ土である．撤去後に樹木下を精査したが遺構・遺物は確認されなかった．

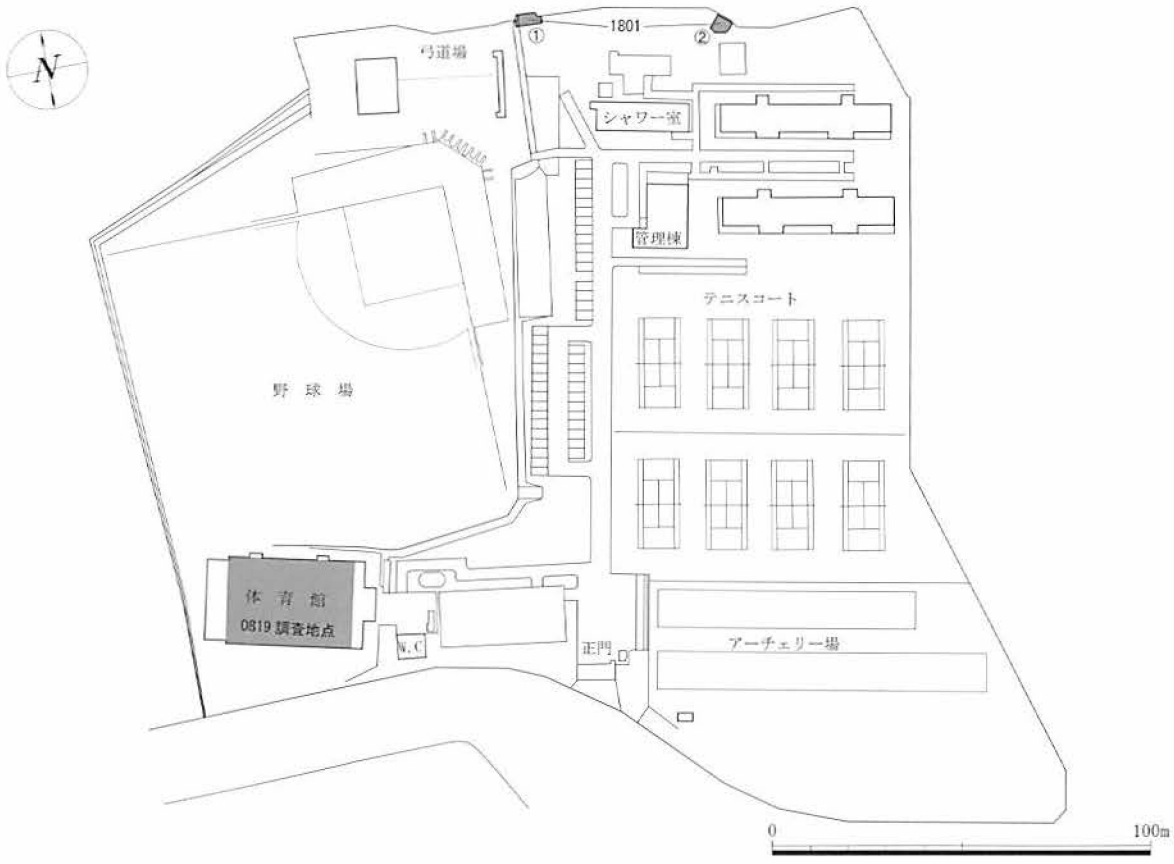
写真181　①近世硬化面検出状況（南より）

写真182　①抜取り痕内西壁土層断面（東より）

写真183　②南壁土層断面（北より）

写真184　②集石検出状況（南より）

図９　渡鹿地区における調査地点配置図（1/2000）



Ⅱ－８　渡鹿地区（宿舎）　（図10参照）

１．（渡鹿２）屋外ガス管更新工事に伴う立会調査（1817）

＜調査期間＞

2018年11月６日～継続中

＜調査面積＞

177.55㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

渡鹿宿舎のガス管の位置把握と更新方法確認に伴う立会調査を実施した．後に実施する予定のガス管更新のための試掘的調査であり，道路際から宿舎内車道部分にあたる南北約70mの掘削予定地に対し，講義業者と協議し３カ所について試掘をおこなった．北から１～３トレンチと仮称する．

１トレンチは宿舎３号棟の南東角から南へ1.5m，東へ8.6mに位置し，東西1.2m，南北3.6mの範囲を重機と人力によって掘削した．目的とするガス管は調査区南側の地表下1.1mで発見した．掘削はすべて現代埋土内におさまったが，調査区北側では地表下30cmで粘性がやや強い遺物を含まない黒褐色土が検出された．また，地表下60cmでは粘質が強く火山由来と考えられる黄褐色粘質土が検出されている．

２トレンチは宿舎１号棟の東側にある駐輪場南東角から東へ2.9m の位置し，東西1m，南北1.7mの範囲を掘削した．ガス管の掘方埋土が地表下40cm で検出でき，その掘方埋土内のみを掘削したところ，目的とするガス管を地表下75cmで発見できた．

３トレンチは渡鹿団地の車道と接する入り口付近で，東西1.25m，南北2.1mの範囲を掘削した．目的のガス管は地表下0.75mで検出された．ガス管掘方周囲には混じり気のない暗褐色土が地表下30cmで検出されており，トレンチ１で検出した黒褐色土と類似するが，遺物などは出土せずその性格は不明である．いずれのトレンチでも遺構，遺物は検出されなかった．

図10　渡鹿地区（宿舎）における調査地点配置図（1/1000）

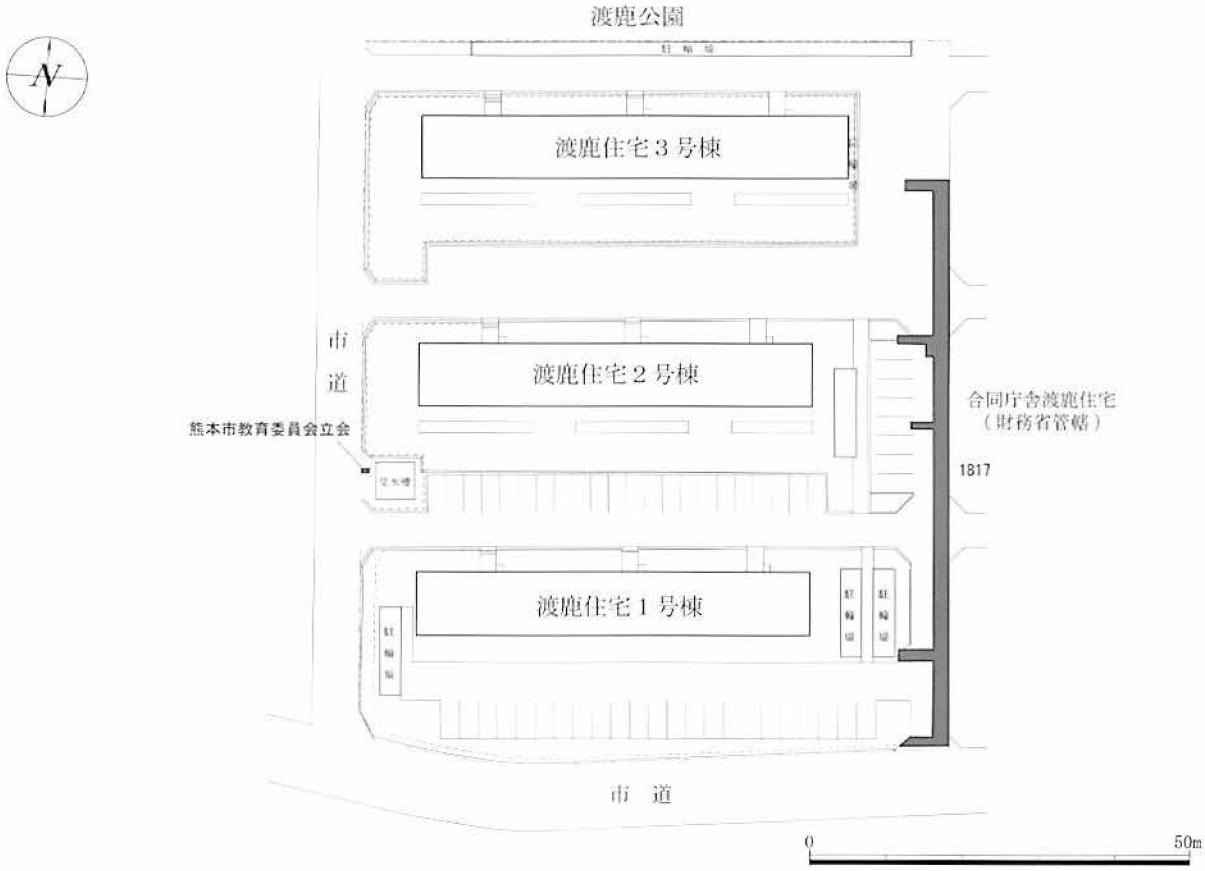


写真185　トレンチ１重機掘削作業風景（南より）

写真186　トレンチ１掘削状況（南より）

写真187　トレンチ１黄褐色土層検出レベル（西より）

写真188　トレンチ2掘削レベル（南より）

写真189　トレンチ３遠景（北より）

写真190　トレンチ３掘削状況（南より）

第Ⅲ章　文化財活用活動の記録

埋蔵文化財調査センターは，1994年より実施している構内遺跡の調査成果やその重要性について，生涯教育での活用を目的とし，展示などの活動を通じて大学内外に発信している．

本センターでは，前年度に実施した調査成果を速報展として公開しており，2018年度は本荘北地区での調査成果を中心とした展示を企画した．

このほか，オープンキャンパスやホームカミングデー，授業協力などをとおして，調査成果の公開事業を開催した．

1．速報展示『発掘されたメインストリート！』

＜開催期間＞

2018年12月３日～2019月４月30日

＜開催場所＞

埋蔵文化財調査センター展示室

＜概要＞

昨年度，本荘北地区大学附属病院にて実施した発掘調査では，旧日向往還が発見された．平地にありながら「切通し」という土を掘って一段低くした構造をしており，展示では模型を使って解説した．

このほか，江戸時代の暮らしが分かる生活道具や，附属病院の前身である県立熊本病院のころの遺物，当敷地内の遺跡としては主要な時期である奈良・平安時代の遺物も併せて展示した．

開催期間中は，学内外から約200名の参加があった．

＜掲載記事・報道＞

2018年12月４日　熊本日日新聞　24面

写真191　速報展示　展示説明会実施状況

2．広島大学総合博物館企画展への協力

広島大学総合博物館第13回企画展「大学と埋蔵文化財～キャンパスの遺跡・発見された文化財の魅力～」

１期

日時：2018年11月7日（水）～11月12日（月）

場所：東広島芸術文化ホールくらら 市民ギャラリー

２期

日時：2018年11月16日（金）～12月15日（土）

場所：東広島市出土文化財管理センター 展示室

【主催】広島大学総合博物館

【共催】東広島教育委員会（出土文化財管理センター）

【協力】北海道大学埋蔵文化財調査センター，東北大学埋蔵文化財調査室，東京大学埋蔵文化財調査室，金沢大学埋蔵文化財調査センター，京都大学文化財総合研究センター，大阪大学埋蔵文化財調査室，岡山大学埋蔵文化財調査研究センター，島根大学総合博物館，山口大学埋蔵文化財資料館，愛媛大学埋蔵文化財調査室，徳島大学埋蔵文化財調査室，九州大学埋蔵文化財調査室，熊本大学埋蔵文化財調査センター，鹿児島大学埋蔵文化財調査センター，広島大学文学研究科考古学研究室，広島大学敦煌学プロジェクト研究センター，平山郁夫美術館

広島大学総合博物館による上記の企画展において，熊本大学埋蔵文化財調査センターでは，本企画の冊子へ熊本大学の構内遺跡の紹介と本センター所属教員の研究テーマについて寄稿した．

3．オープンキャンパス2018

＜開催期間＞

2018年８月４日（土）９：00～16：30

＜開催場所＞

埋蔵文化財調査センター展示室

＜概要＞

毎年開催される，熊本大学を紹介するオープンキャンパスでは，高校生や保護者に埋蔵文化財調査センターを開放し，構内遺跡と調査成果・文化財保活動の様子を紹介した．26名の来訪があった．

写真192　オープンキャンパス　展示説明の様子

4．ホームカミングデー

＜開催期間＞

2018年11月4日（日）　13：30～15：00

＜開催場所＞

黒髪南キャンパス，埋蔵文化財調査センター展示室

＜概要＞

熊本大学の卒業生を母校に迎えるホームカミングデーでは，黒髪南キャンパスの４つの主要調査地点を巡り，埋蔵文化財調査センターで展示を高覧いただいた．16名の参加者があった．

写真193　遺跡巡りでの遺跡説明の様子

写真194　遺跡巡りでの遺跡説明の様子

写真195　ホームカミングデー展示説明の様子

5．RKK 取材対応「電停名を掘る！」

＜開催期間＞

2018年６月27日（水）

＜開催場所＞

埋蔵文化財調査センター展示室

＜概要＞

RKK（熊本放送）の地面の由来を探る番組で，九品寺駅の名前の由来について取材を受けた．本庄遺跡（附属大学病院）では，「九品寺」の名の由来を示す可能性のある刻書土器が出土していることを紹介した．

2018年７月９日（月）午後３時放送「ウエルカム」コーナー名「ココ掘れ！エゴシ」のテーマ名「電停名を掘る！」にて放送．

写真196　取材の様子

6．授業協力

構内遺跡と文化財保護の説明，展示の見学など．

・2018年４月26日
上田理恵子先生（教育学部）　学生４名

・2018年７月10日
木下尚子先生（文学部）　学生約40名

・2018年７月11日
宮縁育夫先生（教育学部）　学生20名

・2018年11月２日
小畑弘己先生（文学部）　学生28名

・2018年12月５日
小畑弘己先生（文学部考古学研究室）　学生16名

写真197　遺物整理作業の見学

写真198　構内遺跡と展示の説明

Summary

In current year, we carried out investigations of buried cultural properties accompanied with reconstruction work sequentially and coped with the normal facilities maintenance of University, too. The number of investigations in the current year excavation are 3, presence investigations are 34.

In Kurokami south area, we supplemented the lack of the investigation for the rebuilding of Architecture and Building Engineering No.1 (1815 excavation spot). Like last year, we found a pit dwelling and some pits of Ancient times, a big ditch and the brick building basics of modern period.

In Kyomachi area, we carried out presence investigation during the update work of the lifeline, and found structural remains and relics of Yayoi period, Ancient times, early modern period, modern period (1809・1810・1811 excavation spot). These structural remains of early modern period and modern period have few accompanying relics, we have to consider the excavation result in the future. But we think these excavation result is useful for reconstruction of history in Kyomachidai. At the 1807 investigation spot, in connection with repair work of a swimming pool, we didn't find structural remains and relics of Ancient times, but we ratified that Kyoumachi area was located on the top of slight highlands, because of the situation about natural solid. And we could got the helpful information for the distribution and deployment of remains.

In Honjo north area, we performed excavation in connection with the demolition construction of the old Administration Building and old Outpatient Examination and Clinical Research Building which we carried out as the redevelopment work in the University Hospital from last year (1708 excavation spot). At the excavation spot in connection with the demolition construction of old Outpatient Examination and Clinical Research Building, we excavated the continuance of the street ruins thought to be the old street of "Hyuga Oukan" street that we confirmed in last year. This result is expected when helpful to restore the aspect of Kumamoto Castle downtown area in the early modern period .

In Shinnabe area, we carried out presence investigation in connection with construction of Administration Building belong to the School of Pharmacy and other works (1822 excavation spot).

The full-scale investigation in this area is since 2017. There were not much detections of structural remains and relics, but it was at the good opportunity to grasp an underground aspect of this area.

In addition, the structure remains of Modern period were confirmed at each investigation point. In Oe area, at the investigation spot in connection with the construction of industrial innovation laboratory and other works (1806・1813 excavation spot), we found the brick building basics and the concrete basics. It is assumed to be the building basics in the Kumamoto Pharmacy Technical school times.

At the investigation spot, in connection with repair work of a swimming pool in Kyomachi area, Architecture and Building Engineering No.1 in Kurokami south area, in connection with de-root work of the trees in Kurokami north area (1829 presence investigation spot), we found brick structure and building basics, too.

In current year, the work in connection with the restoration of the earthquake disaster was almost finished. However, the other maintenance work is still continued.

I want to act for get understanding and the cooperation of related organizations and want to try for smooth promotion of the redevelopment work of our university and the protection activity of reserve buried cultural properties in future.

금년은 구마모토 지진의 부흥사업과 관계된 매장문화재 조사를 계속해서 실시하며, 동시에 본 대학의 시설정비사업에 따른 조사에도 대응했다. 2018년도에 실시한 조사는 발굴 조사 3건, 입회 조사가 34건이다.

쿠로카미 남지구에서는 쿠로카미 남 C2(구공학부 1호관)의 재건공사에 있어서 조사 범위를 추가했다(1815 조사 지점). 작년과 마찬가지로 고대의 수혈주거와 주혈, 근대의 도랑, 벽돌건물기초 등이 검출되었다.

쿄마치 지구의 라이프라인의 재생공사(1809・1810・1811 조사 지점)에 따른 입회조사에서는 야요이시대・고대・근세・근대의 유구와 유물들이 확인되었다. 이번 근세・근대의 유구는 공반유물이 적어 앞으로 조사성과를 충분히 검토해야 하지만 쿄마치대의 역사복원 자료가 될 것이다. 수영장 재건공사(1807 조사 지점)에서는 오래된 시대의 유구・유물은 검출되지 않았지만 범위 내에서 확인한 기반층의 양상으로는 쿄마치 지구가 미고지의 정상부에 위치한 것을 다시 확인함과 동시에 유적의 분포와 전개를 파악하는데 유용한 정보를 얻을 수 있었다.

혼죠 북지구에서는 대학병원의 재개발 사업으로 작년도부터 실시하고 있는 구 관리동・구 외래임상연구동의 해체공사와 관계된 발굴조사를 실시했다(1708 조사 지점). 구 외래임상연구동 해체공사에서는 작년도에 확인한 구 휴가왕래(旧日向往還)로 생각되는 도로터의 연장부를 조사했다. 근세 구마모토 성곽도시의 모습을 복원할 때 도움이 될 것으로 기대된다.

신나베지구에서는 약학부관리동 신영, 기타 공사에 따른 입회조사를 실시했다(1822 조사 지점). 본 지구에서 실시된 본격적인 조사는 2017년도 이래이다. 검출된 유구・유물은 많지 않지만 본 지구 지하의 양상을 파악하는데 좋은 기회가 되었다.

이 외에 근대의 유구도 각 조사지점에서 확인되었다.

오오에복지구의 자연공생형산업 이노베이션센터 신영과 기타 공사 지점(1806・1813 조사 지점)에서는 벽돌건물기초나 콘크리트기초를 확인했다. 구 마모토약학전문학교 시대의 건물 기초로 보인다.

쿄마치 지구 수영장 재건공사지점이나 쿠로카미 남지구 구 공학부 1호관 재건공사지점, 쿠로카미 북지구 나무 뿌리제거 사업 지점(1829 조사 지점) 등에서도 벽돌구조물이나 건물기초가 검출되었다.

금년도에 지진재해 부흥과 관계된 공사는 거의 끝났다. 그러나 다른 정비사업은 아직 계속된다. 발굴조사보고서의 작성・간행 작업도 있다.

앞으로도 관계 각처의 이해・협력을 받아 본 대학 재개발사업의 원활한 추진과 매장문화재 보호활동에 힘쓰고자 한다.

付篇１　2018年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

１．熊本大学埋蔵文化財調査センター規則（H29.4.1～）

（趣旨）

第１条　この規則は，熊本大学学則（平成16年４月１日制定）第９条第２項の規定に基づき，熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という．）に関し必要な事項を定める．

（設置目的）

第２条　センターは，熊本大学（以下「本学」という．）に所在する遺跡を発掘調査するとともに，出土した埋蔵文化財を記録，研究，保存及び活用し，もって本学の教育研究に寄与することを目的とする．

（業務）

第３条　センターは，次に掲げる業務を行う．

(1)　埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること．

(2)　出土した埋蔵文化財の整理・研究，保管及び保存に関すること．

(3)　文化庁等に提出する報告書の作成に関すること．

(4)　その他センターの目的を達成するために必要な事項．

（職員）

第４条　センターに，次に掲げる職員を置く．

(1)　センター長

(2)　専任教員

(3)　その他必要な職員

（センター長）

第５条　センター長の選考は，本学の専任の教授のうちから，第７条に規定する委員会の推薦に基づき，学長がおこなう．

２　センター長は，センターの業務を掌理する．

３　センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない．

４　センター長に欠員が生じた場合の補欠のセンター長の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする．

（専任教員）

第６条　専任教員の選考は，熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会の議に基づき，学長がおこなう．

２　専任教員の選考に関し必要な事項は，別に定める．

（委員会の設置）

第７条　センターの管理運営に関する事項を審議するため，熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会（以下「委員会」という．）を置く．

（委員会の組織）

第８条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する．

(1)　センター長

(2)　センターの専任教員

(3)　文学部及び教育学部から選出された教授又は准教授　各１人

(4)　法学部，大学院社会文化科学研究科又は大学院法曹養成研究科から選出された教授又は准教授　１人

(5)　大学院先端科学研究部から選出された教授又は准教授　２人

(6)　大学院生命科学研究部の医学系又は医学部附属病院から選出された教授又は准教授　１人

(7)　大学院生命科学研究部の保健学系及び薬学系から選出された教授又は准教授　各１人

(8)　発生医学研究所，生命資源研究・支援センター又はエイズ学研究センターから選出された教授又は准教授　１人

(9)　運営基盤管理部施設管理課長

(10)　その他センター長が必要と認めた者　若干人

２　前項第３号から第８号まで及び第10号の委員は，学長が委嘱する．

３　第１項第３号から第８号までの委員の任期は，２年とし，再任を妨げない．

4　第１項第３号から第８号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする．
5　第１項第10号の委員の任期は，学長が委嘱の都度定めるものとし，再任を妨げない．
（委員会の審議事項）
第９条　委員会は，センターに関する次に掲げる事項（熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則（平成16年４月１日制定）第３条に定める事項を除く．）を審議する．
(1)　センターの業務に関すること．
(2)　センター長候補者の推薦に関すること．
(3)　施設及び予算に関すること．
(4)　その他センターの管理運営に関すること．
（委員長）
第10条　委員会に，委員長を置き，センター長をもって充てる．
2　委員長は，委員会を招集し，その議長となる．
3　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する．
（議事）
第11条　委員会は，委員の過半数が出席しなければ，議事を開き，議決をすることができない．
2　委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる．
（意見の聴取）
第12条　委員長は，必要があるときは，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる．
（事　務）
第13条　センター及び委員会の事務は，運営基盤管理部施設企画ユニットにおいて処理する．
（雑　則）
第14条　この規則に定めるもののほか，センターの運営に関し必要な事項は，センター長が別に定める．

附　則
1　この規則は，平成23年10月１日から施行する．
2　国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則（平成16年４月１日制定）及び熊本大学埋蔵文化財調査室要項（平成16年４月１日制定）は，廃止する．
3　この規則施行後，最初に任命されるセンター長は，第５条第１項の規定にかかわらず，この規則により選考　されたものとみなす．
4　この規則施行後，最初に任命されるセンター長の任期は，第５条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする．
5　この規則施行後，最初に委嘱される第８条第１項第３号及び第４号の委員の任期は，同条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする．

附　則（平成24年12月27日規則第142号）
この規則は，平成25年４月１日から施行する．
附　則（平成27年３月13日規則第94号）
この規則は，平成27年４月１日から施行する．
附　則（平成28年２月５日規則第９号）
この規則は，平成28年４月１日から施行する．
附　則（平成28年３月１日規則第30号）
この規則は，平成28年４月１日から施行する．
附　則（平成28年９月23日規則第404号）
この規則は，平成28年９月23日から施行する．
附　則（平成29年３月31日規則第153号）
この規則は，平成29年４月１日から施行する．

2．2018年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1　埋蔵文化財調査センター組織

＜センター長＞	（併・文学部教授）	伊藤　正彦（2017.4.1～）
＜専任教員＞		大坪　志子
		山野ケン陽次郎
＜技術補佐員＞	（2015年５月～）	吉留　広
	（2017年４月～）	士野　雄貴
＜事務補佐員＞	（2016年４月～）	濵田　春美
＜室内作業員＞	（2018年４月～2018年４月）	後藤　恵
	（2018年４月～2019年３月）	井上　裕美
		小山　正子
		首藤　優子
		末吉　美紀
		園田　智子
		増井　弘子
	（2018年10月～2019年３月）	江口　路
		鬼塚　美枝

2　埋蔵文化財調査センター運営委員会

委員長	伊藤　正彦	（埋蔵文化財調査センター長）	任期（2017.4.1～2019.3.31）
委員	小畑　弘己	（文学部教授）	（2017.4.1～2019.3.31）
	神野　雄二	（教育学部教授）	（2017.4.1～2019.3.31）
	平田　元	（大学院法曹養成研究科教授）	（2017.4.1～2019.3.31）
	中田　晴彦	（大学院先端科学研究部准教授）	（2017.4.1～2019.3.31）
	伊東　龍一	（大学院先端科学研究部教授）	（2017.4.1～2019.3.31）
	宇宿　功市郎	（医学部附属病院教授）	（2017.4.1～2019.3.31）
	米田　哲也	（大学院生命科学研究部保健学系准教授）	（2017.4.1～2019.3.31）
	杉浦　正晴	（大学院生命科学研究部薬学系准教授）	（2017.4.1～2019.3.31）
	古嶋　昭博	（生命資源研究・支援センター准教授）	（2017.4.1～2019.3.31）
	松下　栄司	（運営基盤管理部施設管理課長）	
	伊藤　正彦	（埋蔵文化財調査センター長）	（2017.4.1～2019.3.31）
	大坪　志子	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	
	山野ケン陽次郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	

審議事項

2018年５月22日　議題

１）平成30年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事予定一覧について
２）平成30年度埋蔵文化財調査センター予算配分（案）について
３）埋蔵文化財調査センター教員の業務の見直しについて
４）その他

報告

１）平成29年度埋蔵文化財発掘調査結果一覧について
２）平成29年度埋蔵文化財調査センター予算の支出実績について
３）熊本大学博物館機構（仮）について
４）その他

2018年９月４日　議題

１）埋蔵文化財調査センターの教員選考の書類審査について

2018年９月21日　議題
１）埋蔵文化財調査センターの教員選考について

2019年１月11日　議題
１）埋蔵文化財調査センター長候補者推薦について

付篇２　埋蔵文化財調査センター2018年度調査・研究活動記録

【調査員】

大坪志子

＜論文等＞

・「幅津留遺跡の玉類とその製作技術」『幅・津留遺跡』熊本県文化財調査報告第336集，熊本県教育委員会，pp.305-316.
・「近畿・中国・四国の玦状耳飾」『先史学・考古学論究』Ⅶ，龍田考古会，pp.41-57.
・『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』24，熊本大学埋蔵文化財調査センター（編集・共著：大坪志子・山野ケン陽次郎・吉留広・土野雄貴）.

＜科学研究費＞

・『九州縄文時代後晩期における玉と縄文文化の実証的研究』平成29～令和2年度科学研究費補助金　基盤研究（B）（研究代表者）.
2018年７月30日～８月24日　三万田東原遺跡発掘調査
2019年３月５日～12日　三万田東原遺跡発掘調査

＜講演＞

・「熊本大学キャンパスの埋蔵文化財と歴史」熊杏会八代支部総会（2018年12月13日，八代市）.

＜その他＞

・長崎県原の辻遺跡調査指導委員会（2018年12月11日，長崎県埋蔵文化財センター）.
・『熊大通信』vol.70　pp.5-6.
・鹿児島県西之表市二石遺跡出土勾玉に関する所見対応（2018年９月25日，埋蔵文化財調査センター）.
・熊本大学オープンキャンパス2018（2018年８月４日）.

山野ケン陽次郎

＜論文等＞

・「先史琉球列島における広田上層式貝符の研究」『中山清美と奄美学－中山清美氏追悼論集－』pp.169-184.
・「先史時代におけるマリアナ諸島の貝製品」『先史学・考古学論究』Ⅶ　pp.419-433.
・「熊本大学構内遺跡における煉瓦建築の考古学的調査」『平成30年度九州考古学会総会研究発表資料集』pp.21-30.
・「ミクロネシアの貝製民具」『民具マンスリー』51（６・７）pp.28-33.
・『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』14　熊本大学埋蔵文化財調査センター.
・『南島考古入門－掘り出された沖縄の歴史・文化』沖縄考古学会　編（担当：分担執筆，　範囲：第Ⅲ章第４節（７））ボーダーインク.

＜研究発表＞

・「先史時代における太平洋西部島嶼地域の貝類利用の実態解明」ヤポネシアゲノム若手研究集会（2019年１月23日，北海道大学）.
・「熊本大学構内遺跡における煉瓦建築の考古学的調査」平成30年度九州考古学会総会（2018年11月24日，西南学院大学）.

＜科学研究費＞
・『先史時代におけるマリアナ諸島の貝類利用の考古学的研究』平成29～令和元年度科学研究費補助金　若手研究（B）（研究代表者）.
・『３～７世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究』平成29～令和元年度科学研究費助成事業（代表者：木下尚子）.

＜その他＞
・喜界町川尻遺跡出土貝製品に関する指導（2018年９月５日～７日）.
・熊本大学オープンキャンパス2018（2018年８月４日）.

付篇３　埋蔵文化財調査センター2018年度新聞記事

図11 「往時の日向往還くっきり」（熊本日日新聞平成30年12月４日　24面転載）

図12 「道路遺構は「日向往還」」（西日本新聞　2018年12月８日　23面転載）

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぽう　25
書名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　25
副書名	
巻次	
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報
シリーズ号	25
編著者名	伊藤正彦・大坪志子・山野ケン陽次郎・吉留広・土野雄貴
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査センター
所在地	〒860-8555　熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1　TEL.096-342-3832　FAX.096-342-3832
発行年月日	2019年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
本庄遺跡 (1708地点)	熊本県 熊本市 本庄	43201	285	32° 47′ 47″	130° 42′ 45″	20180402 ～ 20180713	7681.2㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
黒髪町遺跡群 (1805地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43201	278	32° 48′ 48″	130° 43′ 42″	20180607 ～ 20190226	38.17㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
黒髪町遺跡群 (1815地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43201	278	32° 48′ 48″	130° 43′ 40″	20180927 ～ 20190304	104.1㎡	学校敷地内の開発事業に伴う

※北緯・東経の数値は世界測地系に基づく値です

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本庄遺跡 (1708地点)	集落址	古代・近世・近代	道・竪穴建物・ピット・溝	土師器・須恵器・陶磁器・火打石・古銭・鉄器	
黒髪町遺跡群 (1805地点)	集落址	古代・近現代	竪穴建物・溝・ピット・近代建物基礎	土師器・須恵器・陶磁器	
黒髪町遺跡群 (1815地点)	集落址	古代・近現代	竪穴建物・溝・ピット・近代建物基礎	土師器・須恵器・陶磁器	

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報25
—2018年度—

令和２年３月28日　印刷
令和２年３月31日　発行

編集兼発行者　熊本大学埋蔵文化財調査センター
熊本市中央区黒髪２－39－１
電話（096）342－3832
印刷所　シモダ印刷株式会社

Published by
Research Center for Buried Cultural Properties,
Kumamoto University
Kumamoto, 2020